平成19年 第4回沼田町議会定例会（1日目）会議録

平成19年12月18日（火）

午前10時08分 開会

1. 出席議員

議長	9番	杉本邦雄	議員	1番	津川均	議員
	2番	横山忠男	議員	3番	高田勲	議員
	4番	大沼恒雄	議員	5番	絵内勝己	議員
	6番	上野敏夫	議員	7番	橋場守	議員
	8番	中村保夫	議員	10番	渡辺敏昭	議員

2. 欠席議員 なし

3. 地方自治法第121条の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏名

町長	西田篤正	君	監査委員	山木一男	君
教育委員長	植木和美	君	農業委員会会長	中山勝	君

4. 町長の委任を受けて出席した説明員

副町長	藤間武	君	総務課長	金子幸保	君
地域開発課長	神憲彦	君	財政課長	辻山典哉	君
農業振興課長	生沼篤司	君	住民生活課長	辻広治	君
建設課長	谷口勲	君	和風園園長	浅野信行	君
旭寿園園長	橋英則	君			

5. 教育委員会委員長の委任を受けて出席した説明員

教育長	松田剛	君	次長	栗中一弘	君
-----	-----	---	----	------	---

6. 職務のため、会議に出席した者の職氏名

事務局長	金平嘉則	君	書記	岡田敏行	君
------	------	---	----	------	---

7. 付議案件は次のとおり

(議件番号)	(件 名)
	会議録署名議員の指名
	会期の決定
	議長の諸般報告
	決算特別委員会決算審査報告（認定第1号）
	決算特別委員会決算審査報告（認定第2号）
	町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告
	一般質問
議案第 61 号	沼田町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
議案第 62 号	空知教育センター組合規約の変更について
議案第 63 号	平成19年度沼田町一般会計補正予算について
議案第 64 号	平成19年度沼田町養護老人ホーム特別会計補正予算について
議案第 65 号	平成19年度沼田町特別養護老人ホーム特別会計補正予算について
議案第 66 号	平成19年度沼田町国民健康保険特別会計補正予算について
議案第 67 号	平成19年度沼田町介護保険特別会計補正予算について
議案第 68 号	平成19年度沼田町公共下水道特別会計補正予算について
議案第 69 号	平成19年度沼田町水道事業会計補正予算について
請願第 3 号	「消えた年金」問題の早急な解決と最低保障年金制度の実現を求める請願について
請願第 4 号	後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める請願について
請願第 5 号	品目横断的経営安定対策に関する請願について
請願第 6 号	産地づくり交付金等の税制特例による一時所得扱いの継続を求める請願について
意見案第 13 号	「消えた年金」問題の早急な解決と最低保障年金制度の実現を求める意見書（案）
意見案第 14 号	後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める意見書（案）
意見案第 15 号	品目横断的経営安定対策に関する意見書（案）
意見案第 16 号	産地づくり交付金等の税制特例による一時所得扱いの継続を求める意見書（案）
意見案第 17 号	灯油等石油製品の価格を引き下げするための緊急対策を求める意見書（案）
意見案第 18 号	悪質商法被害を助長するクレジットの被害を防止するための割賦販売法の抜本的改正に関する意見書（案）
意見案第 19 号	第二期地方分権改革にあたり地域間格差の解消を求める意見書（案）
意見案第 20 号	「森林環境税（仮称）」の導入を求める意見書（案）

意見案第 21 号 アイヌ民族に関する総合的施策確立のため国に審議機関設置を求める意見書（案）

(開 会 宣 言)

○議長（杉本邦雄議長）これより本日をもって招集されました、平成19年第4回沼田町議会定例会を開会致します。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

(会議録署名議員の指名)

○議長（杉本邦雄議長）日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、8番、中村議員、10番、渡邊議員を指名致します。

(会期の決定)

○議長（杉本邦雄議長）日程第2、会期の決定を議題と致します。会期につきましては、議会運営委員会で審議されておりますので、議会運営委員長から報告を願います。絵内委員長。

(絵内委員長 登壇)

○委員長（絵内勝己委員長）おはようございます。私の方より委員長報告をさせていただきます。平成19年第4回沼田町議会定例会の会期につきまして、議会運営委員会の審議結果を報告申し上げます。

去る12月12日、午後2時より議会運営委員と正副議長出席のもとに議会運営委員会を開催を致しました。議会事務局より今定例会の提出議案等の概要について説明を受けるとともに、議長から諮問事項を受けたところであります。これによりますと、今定例会に提出された議案は諸般報告2件、委員長報告2件、行政報告2件、一般質問、町長に対して6人9件、教育長に対して2人2件、計11件、更に、一般議案1件、平成19年度補正予算7件、規約変更1件がありました。この他議長に提出された請願書、陳情書等14件のうち、9件を上程すべきものとして取り扱うことで、意見の一致を見たところであります。

以上、付議事件全般について審議した結果、今定例会の会期は本日18日火曜日から19日水曜日までの2日間とすることで意見の一致をみております。

以上申し上げ、議会運営委員会の報告と致します。

○議長（杉本邦雄議長）委員長の報告が終わりました。お諮り致します。本定例会の会期は委員長報告通り、本日から19日までの2日間に致したいと思っております。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、会期は本日から19日までの2日間に決しました。

（議長の諸般報告）

○議長（杉本邦雄議長）日程第3、議長の諸般報告については、前定例会以降の議会の動静、例月出納検査結果報告書を提出致しましたので、ご覧願います。

（決算特別委員会決算審査報告）

○議長（杉本邦雄議長）日程第4、決算特別委員会決算審査報告（認定第1号）を議題と致します。委員長の報告を求めます。津川委員長。

○委員長（津川 均委員長）はい。

（津川委員長 登壇）

○委員長（津川 均委員長）特別委員会の報告を朗読をもって説明させていただきます。

（以下、委員会の決算審査報告を朗読）

○議長（杉本邦雄議長）委員長の報告が終わりました。本決算に対する委員長の報告は意見を付し、認定すべきものであります。お諮り致します。本決算は委員長報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本決算は委員長の報告のとおり受理することに決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第5、決算特別委員会決算審査報告（認定第2号）を議題と致します。委員長の報告を求めます。津川委員長。

○委員長（津川 均委員長）はい。

（津川委員長 登壇）

○委員長（津川 均委員長）同じく朗読報告をさせていただきます。

（以下、委員会の決算審査報告を朗読）

○議長（杉本邦雄議長）委員長の報告が終わりました。本決算に対する委員長の報告は意見を付し、認定すべきものであります。お諮り致します。本決算は委員長報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本決算は委員長の報告のとおり受理することに決しました。

（町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告）

○議長（杉本邦雄議長）日程第6。町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告を

議題と致します。始めに町長。

(西田篤正町長 登壇)

○町長（西田篤正町長）おはようございます。平成19年度第4回の定例会をご召集申し上げましたところ、年末を迎え何かとご多用の中にもかかわらず、全議員のご出席を賜りましたことを、まずもってお礼を申し上げたいという風に思います。引き続き9月以降の一般行政報告を行います。

（以下、一般行政報告を朗読。）

○議長（杉本邦雄議長）次に教育長。

(松田 剛教育長 登壇)

○教育長（松田 剛教育長）教育行政報告を申し上げます。

（以下、教育行政報告を朗読。）

○議長（杉本邦雄議長）以上で行政報告を終わります。ここで休憩を致します。直ちに全員協議会を開催致しますので、議員の皆様は議員控え室にお集まり下さい。なお、午後の開会は1時を予定であります。

10時44分 休憩

13時01分 再会

(一 般 質 問)

○議長（杉本邦雄議長）再会致します。日程第7、一般質問を行います。事前に、発言される方、答弁される方をお願いをしたいと思います。広報委員の方からいつも聞かされるのでありますが、答弁が長かったり、質問が長かったりということがありまして、まとめ難いという意見がございますので、出来るだけポイントを絞って発言と答弁をお願いしたいと思います。それでは始めに、町長に対して一般質問を行います。通告順に順次発言を許します。8番中村議員、原油高騰対策について質問して下さい。

○8番（中村保夫議員）8番、中村でございます。あの、簡潔に質問をさせていただきたいと思っております。あの、表題にありますように原油が本当に高くなっておりまして、ガソリンが150円というような時代に入ってきております。ちょっと私の資料でいきますと、2年前位だったら110円とか115円でした。それが150円まで上がってきて非常に困っておるのが現状でございます。灯油代につきましても、今朝方ですけど、岩寺石油に行ってちょっと今いくらしているんだと聞いてみたら、92円プラス消費税ということですから、96円何十銭か、まあ97円というような数字が出ておりましたけれども、そのような状況でございます。これの影響というのは本当に大きなものがあって、行政の所管する施設、これには除雪費ですとかバス運行費、温泉経営或いは旭寿園、和風園そういった町の箱物やら動くものやら含めて、その影響が非常に大きいんじゃないかなと思っております。値上がりが始まったのが、大体10月ぐらいからかが顕著になっておりますけれども、19年度中の影響額、こ

れからも含めてですね、影響額について教えていただきたいという風に思っております。これらについて、高橋知事も色々努力をしておられる様でございますけれども、特交で何らかの措置がやってもらえるのであれば、救われる部分もあるんですけれども、大変なことだなという風に思っております。

特にですね、常に灯油と申しますか重油を使っているほたる館、そういったところでは、影響は甚大であろうなという風に想像をつけております。19年度のほたる館の予算ベースでありますけれども、水道光熱費の予算額が6,800万、この内電気代とか水道代だとかに勿論まわされますから、原油代、灯油代としておそらく5,000万ぐらいなものかなという風には思っておるんですけれど、それが例えば2割アップ、3割アップということになりますと、3割上がれば1,800万の影響額が私の想像では出るであろう。これは本当に経営努力を一生懸命やっているにもかかわらず、そんなところで全部利益が貫かれていくということに、本当に憂慮の念を禁じえないでありますけれども。

そこでですね、沼田町の中でも間伐材だとか、それから建築廃材、これはチップにするような仕掛けもある様でございます。薪を焚けというとなかなかしんどい話でありますけれども、ウッドチップボイラーというのがありまして、そういったものを併用をすることによってですね、経費の節減が可能ではないかな。初年目のハードウェアでは相当な、あのボイラーを新しく作る訳ですから、4千万、5千万といった様なお金がかかりますけれども、長い目でみれば費用の削減が出来るのではないかなというふうなことで、こういった恒常的に灯油を使っているようなところでは、木質燃料を使えないものなのかなという風に思っているけれども、町長としてどう思うか、将来的にこういう化石燃料にずっと頼っていくのかどうか、その辺についてお伺いを致したいと思います。

またあの、最後の項目になりますけれども、こういった事象でやっぱり一番困るのは生活弱者と申しますか、そういった方々です。そういった人たちに何かこう、ほんわかとした様な暖かい様な気持ちになって頂けるような政策を打っていただきたい。ここに例えばということで、例示をしてありますけれども、非課税世帯全部の家庭にばら撒けとは私は申しませんが、こういったちょっと生活が苦しいとまでは行かなくても、ちょっとっていうようなところでですね、ある程度の助成ができないかという様なことを考えておりました、例示として示させていただいたのは、80円を超えた部分の半分、今の価格で言えば97円ということにありますから、17円の半分8円50銭ですか、こういったものを助成出来ないだろうかなという風に思っております。もし、こういったものを実行するとすれば、どのくらいの費用がかかるかということをお伺い致したいと思います。あの勿論、高齢者世帯助成ですとか、それから生活保護の家庭にも、それぞれ石油というか暖房灯油を助成するような措置は今までも打っております。ここでもう一段の激変緩和対策と申しますかね、そういったこ

とをやるとすれば、どれくらいの費用がかかるのか。以上3点になりましょうか、ご答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）ご質問の原油の高騰に伴う、3つの質問でありますけれども、第1点目はですね、若干あの単価が低い時点での調査をやっておりますので、12月3日現在の調査ですけれども、全体の町の温泉もひっくるめた全体で必要な額というのは、2,800万くらいという予測をしております。温泉自体が一番大きくて540万くらい、こういう様な状況の数字を今、事務方の方からいただいておりますけれども、今このように単価が上がっておりますので、影響額としてはそういう状況よりもまだ上まわってくるのかなとそんな風に思っております。またお話のように特別交付税のですね補填措置について総務省から調査がありまして、2,800万という数字は向こうの方にも報告が行っておりますので、最終的に交付税の算定をする時にまた、細部に渡っての調整が来るのかなという風に思っております。いずれにしましても私共もやはりその、特別な交付税、特交ですね、寒冷地に対する補填をしていただければ、大変厳しい状況だということでもありますので、懸命に努力をして要請をさせていただきたい、そんな風に思っております。

それから、ご提案のですね、あの廃材ですとか間伐材の関係につきましては、確かにあの私共も化石燃料だけに頼っての温泉の運営は厳しいということは、従来から思っております、たまたま今雪の研究員の伊藤研究員がですね、そのシステムの専門家でありましてですね、今あのどういう方法でやれば温泉の一番効率的な燃料のあれができるのかということちょっと検討してくれ、という話をしておりますので、まああの室蘭工大を出た研究員でありますから、大学と連携をとりながら、またそういうような検討もしていただけるのかなという風に思っております。まああのご提案のように、確かにその間伐材とかそういうものを使えば、経費的に安く上がるのかなと思いますけれども、おっしゃる様に初期投資ですね、これをあの補助だとかそういう制度もありますけれども、どうやってそれを乗り切るのか。それから温泉の設備は更新をしたばかりですから、そうした観点ですとか様々な要因がありますので、これからそれぞれ所管する課とですね、温泉と充分連携を取りながら、将来に向けてより効率的な燃料というのはどういう様なあれが良いのかということも検討させていただきたいと思いますので、結論できるものを今回はご容赦いただきたいと思います。

それから3点目の福祉灯油の関係でありますけれども、議員の皆さんのところにそれぞれ要綱等が配られているかという風に思いますけれども、私共の町は平成7年からです、管内では沼田町と他に1町がやってただけでありますけれども、この福祉灯油制度をずっと実施をさせていただいております。今回色々な町村がやっぱり取り組むという様な姿勢になった様でありますけれども、ほぼ私共の町の考え方と似たような状況なのかな、まあ要するに私共の町を参考にして妹背牛なんかの場合は一律7千円

とか、そういう様な状況でやっているようでありますけれども、そうした中で対象者等については同じ様な条件だという風に思いますけれども、今のその単価で行きますとですね、ちょっと古い単価で計算、12月13日で計算していますので、ちょっと申し訳ありませんが、93円で計算致しますと、今あの非課税世帯、国保の台帳から拾いますとですね約300世帯。そうしますと、そのオーバーした分についての半額ですね、補填するとすれば273万ですから大体300万くらいかなとそんな風に思っております。今仮に予算化されている金額は180件で135万4千円予算化されているんでありますけれども、現在申請あるのが107件ということで、非常にあの率としては60%に届かないような率だという風に聞かされておりますので、こうした申請行為をですね、きちっと対応していただける様にもっと広報活動をやりながら住民の皆さんの申請手続きを喚起したいと思っております。要綱をご覧になればお分かりのように、12月1日現在の実勢単価でもってそれぞれ12月、1月、2月に支給するという様な要綱になっておりますので、この要綱からいくとやっぱり現在の上がり方から行くと実情に合いませんので、この要綱を若干改正させていただきまして、12月については12月1日現在の単価、それから1月、2月についてはですね、それぞれ実勢の単価にかけることが必要なのかな。まあ総体で100リットルという風になっておりますので、どういう配分にするかということもあろうかと思っておりますので、この辺は事務方の裁量にちょっとお任せいただきたい。要するに従来ですと、12月1日で押さえた単価で要するに3月までの実勢単価という風に捉えてやってきましたので、今の状況で議員の質問の様に非常に上がり方が激しいですから、1月は1月、2月は2月で捉えて、どういう配分にするかということをお任せいただきたいという風に思います。

併せてですね、この要綱のなかではそれぞれ1から3までお手元にあると思っておりますけれども、そういう対象者を規定してありますけれども、今年はこの4項の他にですね、特に町長が必要と認めた場合という項目を加えて、地区の民生委員さんがですね、該当しない方であっても非常にそういうその困窮世帯で困っている方が居るんだということが実証されれば、そういう方たちも支給の対象にして拡大をしていくことによってですね、今ご提案のあった低所得者の皆さん方をいくらかでもその、手助けになるのかな、まあそんな風に思っておりますので、そうした要綱の改正をこの議会を終わりましたらすぐ手掛けまして、周知を図って行きたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げたいという風に思います。

○8番（中村保夫議員）はい、議長。

○議長（杉本邦雄議長）はい、中村議員。

○8番（中村保夫議員）非常に前向きな答弁もあつたし、影響額として2,800万という金額が沼田町の役場の職員が一生懸命1年間頑張つて節減に努めてきた額を、もの見事にパッと無くなってしまった様な金になってしまつて非常に残念だという風

に思っております。特交でいくら補填されるか分かりませんが、何らかの対策をどっかで打たなきゃならんのだなという風に私も決意を新たにしております。

この灯油の値段についてですね、やっぱりOPECも増産に踏み切るところまでは行かないで、量を出さない。量を出さないから結局色んな資金が投機買いをしてしまって高くなっているというのが現状で、これはあのややしばらく続くと思っております。そこでですね、順番に言いますと、この木質燃料の使用についてなんですけども、言ってみれば、そういう4千万、5千万をかけた様な大型ボイラーを伊藤研究員にやってもらっているらしいんですけども、そういった物はそれはそれとしておいて、私は平家の宿と源氏の宿のロビー、ああいったところでペレットストーブのようなものを使ってですね、来た人たちに火を見せてやると申しますかね、火を見せてもその、煙たいだとか、くさいだとかそういったものは今のペレットストーブは全く無いんですけども、そういったものを使いながら、沼田町というのは自然に優しいような燃料を焚いているんだよ、化石燃料に頼ってないんだよと、いち早く示すべきじゃないかなという風に思っております。ペレットストーブにつきましては、5、60万も出せば1台買えますし、ウッドペレットにつきましては、今石油価格の8割くらい、石油が高くなっちゃったものですから逆転しちゃったんですね。ウッドペレットの方が安くなったという状況なんですけれども、同じカロリーを出すのにウッドペレットの方が安いという状況になっておりますので、そういったものをロビーに置いて暖房に使うのと同時に町民にそれを見せてやる、そして化石燃料に頼らないでもこういった発熱器具もあるんだという様なことを示してやるのもいいことかなという風に思っております。ウッドチップストーブを、ボイラーを導入してくれという要望とは他に、そういった簡便な方法もあるというようなことを紹介させていただきたいと思っております。

それともう1点ですけども、その非課税世帯に対する助成なんでありますけれども、300世帯でこれに助成をすると273万円のコストがかかるということでありまして、言ってみれば、それぐらいで済むんならやってあげたら、というのが私の偽らざる感想でありまして、180戸の今の助成世帯の内の105戸が今使っていて、どうのこうのという下りもありましたけれども、それらの方々により充実させたものをお配りするのでもいいのかもしれないんですけども、私はこの300世帯の方々に273万円の助成をする用意があるという風に町民の皆さんに説明をした方が私はより親切でないかなという風に思っております。勿論、のべつ幕無しにばら撒くようなお金はございませんから、それぞれの方々からこれこれの店から例えば102円の灯油を40リットル買いました。その時の領収書を添付して出して下さいと。例えば102円であれば22円ですから11円分50リットルであれば550円ですか。そういった額にはなりますけれども、そういった形の方が温かみを感じる家庭もきっとあろうかと思っております。勿論その100リットルの現物支給というのも、良いのかもしれないけ

れども、是非この300世帯の方々に助成をする方法を考え出していきたいという風に思っております。最後の3番目についてだけ、町長、300世帯についてやる気があるかどうかだけお答え願います。

○議長（杉本邦雄議長）町長。

○町長（西田篤正町長）先程申し上げましたとおりですね、管内でもそうした取り組みは私共の町は先進的な事例でやってきて、大変な皆様のご理解を頂いておるところでありますけれども、これはあの、言葉が悪いのかもしれませんが、300世帯の非課税世帯が全てそういう生活に困窮しているかということ、そうではないだろうということも考えられますですし、今申し上げました様に、やはりあの地区の担当の民生委員さんがいらっしゃいますんで、そういう方たちがその自分の担当地域の中で非常にそういう状況にあるということ把握できる状況かという風に思いますから、そうした人を役場の方にお教えをいただいてですね、その提出していただいた名簿したがつて私共としてもそういう対象者を決定していくことによってですね、かなりの件数がそこでカバー出来るのかなという風に思っておりますし、先程申し上げましたとおり180件の対象者が居ると言いながら今、107件しか出てないという状況ですから、300に広げたとしても、まあそう数は来ないのかなという風に思いますが、逆に冒頭に申し上げました様に、本当に灯油代が上がったことによって非課税世帯で困っている人なのかなということもやっぱり大変な論議をするところだという風に思いますので、是非あの私が申し上げました様に、それぞれ担当区域の民生委員さんの実態調査によってですね、申請のある分についての範囲を広げさせていただく様なことをご理解いただければという風に思いますのでよろしくお願ひしたいという風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、中村議員。

○8番（中村保夫議員）あまり時間を使ってはならないんですけれども、300世帯の方々、それから180世帯の方々でも、町のお世話にならなくてもなんとか出来るからという思いで、今まで頑張ってきた人がたがほとんどなんです。おそらく300世帯に増やしたとしても、おそらく申請をあげてくるのは150人とか170人だとかだろうと、想像の範疇でありますけれども、そんなに皆がみんな貰えそうだから貰っちゃえと、で中村君のあんたの領収書をくれ、それでオレンとこで流用したいからみたいなことも出てきては困りますけれどもね、その辺はある程度こう、一件当たりどれくらいを限度にするというガイドラインも必要なんでしょうけれども、こういったことで是非とも検討をしていただきたいという風に思います。答弁はいりません。

○議長（杉本邦雄議長）答弁はいいですね。はい、次携帯電話の圏外地域解消について質問して下さい。

○8番（中村保夫議員）続きまして、8番中村が続けさせていただきます。携帯電話

の圏外地域解消についてといういこと書いてあります。本当に非常に便利な時代になりました。便利すぎて困っていることも実はあるんですけども、しかしまだ町内に圏外地域が実はございます。色んなドコモですとかauですとかあるんですけども、人口だとか住居がカバー出来れば、基本的にはオッケーという風に考えているんですね、携帯各社というのは。それでもあの、先程隣におられる渡邊君に聞いてみますと、更新の奥の方に行くとなかなか聞こえずらい、或いは横山さんに話しを聞いてみますと幌新でもなかなか聞こえずらいところがある。それから真布の沢のなかに行くとうどうしても付け根の方まで帰って来ないと携帯が通じないんだ。そういった実質的に使えない地域が町内にたくさんあるのも事実でございます。農家数が少なくなって、だんだん手前側の方に人が住んでいるんですけども、農地まで手前側に持ってくる訳にいきませんから、作業としては沢の奥まで農家としては入ります。私のところにもそういうところが実はあるんですけども、非常に不便なんですね。何か事故があった時、或いはスパナ一本なくなった時に3キロも4キロも移動して携帯をかけて、女房にこれを持って来てくれという電話をかけなければならない。昔はそれが当たり前であったんですけども、便利になった反面、そういうのが逆に目立つようになってきたという状況でございます。先程申しました様に、携帯各社は住居がカバー出来ればそれ以上は町が要請すれば何とかなるところも、自衛隊の駐屯地辺りにはドコモが増設するという風にインターネットを見ると書いてあるんですけども、そういった努力をしてくれるところもあるんですけども、なかなか将来的に圏外地域として残るところが多いだろうなという風に思っております。で、そこでですね、ミニ基地局と言うんでしょうか、マイクロ基地局と言うんでしょうか、その衛星電波を受けてそれを増幅するような施設、これはドコモだったかauだったか忘れましてけれども、個人でそれをやる為には10万円程度でという様な、これはニュースだったんですけども聞いたことがございます。そういった物をですね、真布の沢、或いは幌新の中間辺り、或いは更新のちょっと奥まったところ、そういったところに3局か4局それを置くことによってですね、利便性が飛躍的に上がるんじゃないかなと思うんですね。そういったことについてやるべきだと思うんですけども、町長の存念を聞かせていただきたいと思えます。

○議長（杉本邦雄議長）町長。

○町長（西田篤正町長）具体的にあの詳しく検討しておりませんが、あの今お話にありました、分屯地につきましてはですね、auとNTTドコモが今年度中に開設をするということでインターネットをご覧になったということですけども、恵比島地区につきましても、20年度につきましては開設をするということで今計画を進めているということなんですが、おっしゃる様にあの、おっしゃる農村の例えばですね、その耕作地の奥或いは山の山菜の取りに行った時に、こういうものが使えるかどうかということになりますと、これはあの小規模ながらやっぱり今おっしゃった基地を作

らなきゃならないんですね。その基地が今までの例でいきますとやっぱり1基数千万、この金を果たしてそこへ投資することが良いのかどうかということ、まあ議会の皆さん方、やるとすれば議員の皆さん方にまた相談しなきゃなりませんけれども、そういう費用が例えば真布にも必要だ、更新2にも必要だ、更新3にも必要だ、或いは幌新にも必要だと言った時に町がそこまで金を持てるかどうかということだろうと思うんですね。1基数千万ということですからどのくらいかかるか分かりませんが、そうした財政負担を考えながら将来に渡ってちょっと検討させていただきたいという風に思っております。ただ、現在は小規模の基地についてはインターネットを使ってその自宅から数10メートル範囲でそれが飛ばせれるというのが数万くらいで出来るようなもので出てきたいる様ですから、それは可能なんですけど、今おっしゃる住居も無いところの耕作地で或いは山に入った時にそれを使うということになりますと、そこに単独のアンテナを建てなければならない、基地を建てなければならないということが財政的にちょっと厳しいのかなと単純に思っているとそういう気が致しますので、これらについてはもう少し実情を調査致しまして、調べさせて頂きまして、どういうことが可能なのか議会の皆さん方、議員の皆さん方に、町内の状況で必要だとすればこういうことになりますよ、というのを概算でちょっと検討させていただきたいという風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、中村議員。

○8番（中村保夫議員）いわゆるドコモだとか au だとかがちゃんとした鉄塔を建てようとしたら数千万するんです、2千万とか1,800万とかするんです。だけど、数10メートルではしようが無いかもしれないけれども、1キロくらい飛ばせれるような、例えに出して申し訳ないけれども、真布の一番最後の電気の行っているところはどこよと、そこにその電柱を1本というか立ち上げてですね、そこで引けるという様な仕掛けを考えますとですね、そんなに何千万というレベルでは僕は無いと思っているんです。100万程度のものが沼田町で3本いるのかね、4本いるのかねという風に僕のイメージとしてはそう考えているんで、今後研究をしていただいてですね、圏外地域の解消について努力をいただきたいという風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）町長。

○町長（西田篤正町長）今申し上げましたとおり、検討はさせていただきますけども、先程申し上げました、現在のところはですね、自宅でインターネット回線を使ってやる地域については総務省も許可を認めたんですね。ですけども今中村議員がおっしゃる様に、一つの基地として簡易なものが果たして総務省の認可の条件に合っているのかどうかという、この辺も私共もまだ検討しておりませんので、充分検討しておりませんので充分そういう様なところを担当の方で検討していただいて、また報告をさせていただきたいという風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、よろしいですか。次に5番絵内議員、加工場の経営に

ついて質問して下さい。

○5番（絵内勝己議員）はい、5番絵内です。加工場の経営についてと題して、質問をさせていただきたいと思います。トマトジュースについてですけれども、本町のトマトジュースは缶が主流ですが、これからはビン又は紙パックの方向でするべきと思うが、トマトの生産者も高齢者が多いため、今の状態ではトマトを作る人が居なくなる可能性があります。トマトジュースの転換の時期に来ていると思うので、生産者も加工場も高収益が上がる様に進めるべきと考えております。

また、これは秋ぐちが非常にある訳ですけれども、毎日ではありませんが、一日のうちに作業に切り替えをしない様にある程度工場を拡張することによって、また今それぞれ働く場所が非常に少なくなっている昨今ですけれども、そういった風にしていくらか工場を大きくすることによって雇用の確保も出来るかと思っておりますけれども、はじめにこういった関係につきまして、町長の見解をお伺い致したいと思っております。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）あの、おっしゃるとおりですね、私も就任以来その缶のトマトジュースというのは、なかなかちょっと考えもんだらうということで、担当の方に話をしてきました。来年に向けてですね、全面的に切り替えが可能かどうか分かりませんが、試作的に缶からビンへ若干の変更をしたいという風に思っております、そうした検討も是非加えさせていただきたいと思っております。いずれにしても、方向性としては今の缶を出来るだけ早い時期に解消してビンに移行させたいという様な思いでおりますので、ご理解いただきたいという風に思っております。

それから加工場、確かに狭いのは私共も承知をしておりますけれども、現在色んなやりくりをしながらやっとな採算性を維持している状況が実態でありますので、あまり設備投資をして拡張することによってですね、採算ラインをまた割るようなことになっても困りますので、その辺については雇用の問題もあろうかという風に思っておりますけれども、慎重に対応していきたいという風に思っております。

○議長（杉本邦雄議長）はい、絵内議員。

○5番（絵内勝己議員）はじめに、それぞれやりくりをしながら今、取り組んでらっしゃると町長の答弁がありましたけれども、確かにやりくりすることは大事なことでありますけれども、やりくりすることによって工場の仕事の流れがストップすることもありますので、そういうことも十分に考慮しながらこれから更なる検討をさせていただきたいと思っております。

それで、高収益を上げる為にとということで、それぞれやはり取り組んでいかなければいけないという風に感じているのは、私達トマト組合で今月の6日、7日に下川町の方にそれぞれ研修に行かさせていただきました。それで下川町に色々と勉強させていただいた中において、下川町は私達の沼田町より歴史は浅い訳であります。下川町も昔、沼田の加工場に研修に来ておったという様な、そんな話でありました。そうい

った下川町が今はもう、沼田より又は北海道においても名の通るようなトマトでそれぞれ実績を上げているのが現実でありました。そういったことには、なぜこんな風になったのかなという風に感じたときに、下川町におきましては、私達のようにトマトを露地に植えるのでは無くして、ハウスを作られてハウスのなかで植えて、そして収穫されているということでもあります。そんななか下川町ではそういったひとつの中で、高収益を上げているという風に聞かさせていただきました。それにはどこの地域もそうでありますけれども、今農業のやられる方が段々と減ってきているのが現実であります。そして段々と高齢者になってきている、そんな関係があります。毎年沼田町もそうですけれども、農業を辞められて離農される方が何軒がいらっしゃる訳ですけれども、そういったことを考えた時に、やはりこれから将来について、こういったことも含めながら別なとか新しい人がそれぞれこういった方面にも取り組めるような、そういったそんな一つの方法に持っていくべきだとかという風に感じるのであります。と申し上げますのは、下川町ではそれぞれ地元企業と役場が一体になりまして、農業参入の事例として今全国的にも注目を集めている訳でありますけれども、建設業界の人方がそのトマト栽培の出来る状況というのは、やはり収入もそれだけあるから出来る訳でありますけれども、今私達の沼田においては生産者は45円で購入いただいている訳ですけど、大体コンテナ1箱が千円くらいですけども、この下川町におきましても、桁外れの金額で購入されております。従いまして、購入もしてただけに売る単価も当然高い訳であります。購入されている関係においては、キロ140円から160円で購入されております。それは加工だけではありませんで、生食用も含めてですから、生食用については160円くらいキロ単価になっているそうであります。従いまして、コンテナ1箱が3千円も4千円もなるような、3千円以上になるような、そんな状況であります。だからこそ企業が入って来てそのなかで、ひとつの営業が出来るというような状況下であります。

今、今日まで沼田町におきましても、農業を辞められてもそれぞれ救済出来るうちは良いんですけども、もう何年か致しますと救済が出来なくなってくるという風に私は考えます。そういった時に、ひとつの労働力の無いところに対しまして、やはり地元の建設業者さん等々が入ってきて、その一つの仕事をして採算を合うような方法に持っていくような方法も一つの例として私は大事ではないかという感じをしている訳であります。そんなことを考えた時にやはり、遊休農地を出さない為にもやはり、それぞれの方法というのがある訳ですので、それぞれ町がですね、農地を借り受ける、特定法人貸付事業というんですか、そんなひとつの事業で直接建設業者には貸す訳には行かないらしくて、町が一応その所有権を持っていて、町からその建設業者に貸してあげるといふ様な、そんな様な状況かと思うんですけども、そんな風にしてやりくりをしながら、そして建設業者さんが、なんか下川町では3社がそんな風にして取り組んでいるということでもあります。そしてまた下川町ではやはり、それぞれトマトだ

けでは無いんですけども、ハウスですので年間通してある程度作れるような品柄をやっておいて、それこそ道庁の職員が辞めて来られて、ここで野菜を作って生業を立てているというくらいに、そんな一つの実例もあると聞きました。そう考えました時に、やはり沼田の将来も考えた時に、やはりそんな風にして他の企業の人が入って来ても採算が合う様なそんな魅力のある様な、トマトの生産に持っていくべきだと私は考えるのであります。

やはりこれからのトマトジュースというのは、はじめに申し上げましたけれども、ビンやら紙パックの方向に将来的に進むべきであると思うのです。紙パックになりますと、航空関係で飛行機関係の中で使ってくれるらしいんですね。ビンですとやはり、危ないという関係からビンは使うのは敬遠されている様なんですけども、そういったことを考えるとまだまだこの需要というのは、消費というのは拡大が出来る。ただいきなり紙パックにすると致しましても、その設備投資がかなりかかりますので、一概には出来ないと思うんですけども、やはり色々な面から考えた時に今、缶というのは一つの行き詰まりが来ているんでないのかなとそう考えます。やはり、そういったひとつの切り替えの時期が、お金もかかるかもしれないけれども、やはり缶からビン又は紙パックという方向に持っていくべきだと思います。

その為にはやはり、生産者ももっともっと作って喜びの持てる様な価格にならないと駄目だと思うのであります。今、正直申し上げまして、今一般的に2千本くらいが作られている本数なのかと思います。ま、中には4千本も作っておられる人もおりますけれども、それは特殊な事情かと思うんですけども、2千本くらいで年間100万くらいにならないと、ひとつの作物として取り扱う場合において、どんなもんでもそうです。私達野菜色々を作りますけれども、ひとつの作物はやはり100万くらいにならないとなかなか営農計画書の中に表せないんですけども、そういったことを考えたときに、やはり今の価格をもっともっと高額に購入していただく様に努力もしていただかなければいけませんけれども、また売る場合もそんなひとつ努力をしていただいて両方がやはり高収益を上げるようにして行かなくてはいけないと思うのであります。下川町ではそれこそ、500ミリの二つ入ったものが贈答用でありましたけれども、3,600円以上で売っているんですよ。それは化粧箱だとか、ビンだとか色々お金がかかりますから、全てが儲かる訳ではありませんけれども、やはり沼田のトマトジュースは安過ぎるんです。美味しいのは美味しいんですけど、安いから作る方も段々減って来ているのが現状であります。私達沼田におきましても、ここ数年作っていただけの世帯の方が段々減少傾向にあります。たまたま、今年19年においては天候等が悪かった為に生産量も非常に少ない分もありますけれども、そういったことを考えたときに、やはり今まで苦勞してきた沼田町のこのトマトジュースのこの歴史を絶やすことなく、やはり新しくひとつ取り組む姿勢が必要であると思うんですけども、町長その辺いかがでしょうか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）おっしゃることは理解させていただきますけれども、なかなかやっぱり行政がやるというのは、確実性というか堅実性というかそういうのが求められまして、一気に替えるというのは民間企業と違って非常に難しい、リスクを背負うことを出来るだけ避けなければならないということもありますので、従来躊躇してきた訳でありますけれども、ご指摘のとおり買取価格が非常に安い、全道で色々なところでやっている事例からみても安いということは、私も資料としてもらっておりますので、その解決するにはやっぱり今絵内議員がおっしゃるように、その販売はもちろん販売の在り方も考えなければなりませんけれども、充分検討して市場性に合うものを作っていかなければならない。そういうなことを総合的に考えまして、昨年から新種の新しいトマトの栽培も試験的にやっておりますから、これらを来年も続けまして、再来年以降徐々に新しいものの導入に切り替えていくということで庁舎内では方向性をやっている訳であります、それになりますと品質ですとか栽培法が非常に従来からみますと比較的に取り組みやすい様な状況が生まれるのかなという風に思っております。そうしたものを重ねながら先程からご提言のある容器の改変をしながら価格の引き上げをやって行きたい。価格を上げれば良いというのは、私共も分かってはいるんですけど、今まで100円で売っていたものを、同じような容器でもってそれを300円で売るというのは、これはなかなか難しい話ですね。やるとすれば今言った様に缶からビンに変えて容量を替えてデザインも替えてというようなことでやっていくことが必要だという風に思います。それは、徐々に明年から全面切り替えまでは行きませんが、徐々にそういう扱いをしていきたい。

特に就業センターでも有機のトマト栽培を何らかのかたちでトマトの作付けをやっていただくことにしていますので、そうしたものを製品にするときに、一気に付加価値を高めて、値段を倍くらいにして売るとか、ということも考えられますので、これは今予算が本格的に入りますので、来年に向けてどういう形態でやるかということをもたまた予算の時にご説明申し上げたいとそんな風に思っております。ちなみに、もらった資料ではですね、沼田以外のそれぞれの町村がありますけれども、ほとんどがハウスなんですね。沼田だけが露地でやっている様ですから、この辺もどういふ影響があるのか、普及センターからも指導をいただきながら、もう一度検討させていただいて、とにかく主力の販売でありますトマトジュースを何とか農家の皆さん方はもちろん、付加価値を高めて消費が上がるように、そういう努力をさせていただきたいという風に思います。

いずれにしても、販路をきちっと確保しなければなりませんので、今農業振興課長の生沼課長を中心に新しい取引の最後の詰めをやっていきますので、ちょっと大きなあれになるかと思いますが、これらも1月の臨時会までには結論が出ると思いますから、そういうものをまた報告をさせていただいて、より沼田の商品として付加価

値の高まった商品となるように、努力をさせていただきたいという風に思いますので、よろしくお願ひしたいという風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、絵内議員。

○5番（絵内勝己議員）あの、色々町長から答弁をいただきましたけれども、下川町でもどこでもそうでしょうけれども、議会で色々論議される時には軌道に乗ってしまえば良い訳ですけど、上手く行って当たり前、失敗したら言われるというのが、行政なのかなという感じはしますけれども、始め下川町でも議会のなかで、そんなものしてどうするんだ、そんなに金かけてどうするんだ、と色々ありましたけれども、今それぞれ軌道に乗ってきている関係上から、議会のなかでもそれぞれトマトジュースと言いますか、町で外貨を稼ぐのは加工場しか無いという風に言われているぐらい、今それぞれ好転で進んでいるという風に聞かされております。価格やなんかについてですが、今町長ご説明いただきましたけれども、やはり今まで作った缶をそれを価格を高くして売るということは、それは絶対出来る訳ではありませんけれども、だからビンならビンにする方向にすべて持っていくことにして、価格を上げないと駄目なんです。うちの価格はやはり安すぎるというのが現状かと思うので、是非そのことを前向きに検討いただいて、加工場の収益が更に上がるように、またそして生産者もトマトを作ることによって良かったぞというように、是非俺にも作らせてくれという風な状況にならないと、今の状況ですとそれぞれ作ってもらえんだろか、という風にお願ひをしながら、したら作ってみるかというような雰囲気なのかなと思いますけれども、やはり少なくともロコミでは是非私にもトマトジュースのトマトを作らせて下さいというような、ひとつの方向に持って行かなくてはいけないと思うんであります。それにはやはり、お互いの収益が上がる方向に取り組んで行かなくてはいけない訳でありますけど、その辺の価格について今がひとつの分かれ目だと思うんですけども、町長いかがでしょう。やはり思い切って取り組まないと、今このままで行ってしまいますと、沼田のトマトジュースがだんだんと作るひとが居なくなったら、結局はジリ貧になってしまう訳ですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉本邦雄議長）町長

○町長（西田篤正町長）先程から申し上げているようにですね、来年以降除々にビンに移行させるといういことも検討させていただきたいという風に思いますし、そうした時には今の缶の100円という積算では無くて、もうちょっと付加価値を高めて値段を上げたい、その分を出来れば農家の皆さん方にも還元していけるような方法を考えて行きたいという風に思っております。そうした市場の動きといいますか、買い手の動きも除々に把握しながらですね、沼田のトマトジュースを高い値段で売れるように努力をさせていただきたいという風に思いますので、よろしくお願ひしたいという風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、次の6番上野議員。農業、商業の振興について質問し

て下さい。

○6番（上野敏夫議員）6番、上野です。あの本当に地方が冷え切って、沼田町にしても本当に農業も商業も大変な苦しい時代に入ってきております。そのなかで、町の振興ということで、私の提案を聞いていただきたいと思います。

まず一つ目にですね、バイオ燃料、これはあの化石燃料に頼らずバイオ燃料を研究されております、今北海道でも色んなところで工場を造りあげる努力をしております。そういうバイオ燃料を地域利用モデル事業というのがありますので、そのモデル事業を是非沼田町でも誘致するような運動をしていただいて、農業、商業の振興に繋いでいただきたいと思うのと、その中で特に水稲地帯のこの北空知全体は水稲地帯なので、その水稲のなかの稲わらに多く含まれているセルローズ、これは繊維質のことなんですけどね、この稲わらを回収して、それを分離することによってセルローズが取れて、それがブドウ糖に変わるんですよ、硫酸加水分解をさせることによって、糖化されて糖分になりそれがアルコールに変換できるという研究が既にされておまして、それが実験のなかでは成功してて、これから北海道農業は、これから10年くらい分らないと思うんですけど、稲わらを原料にしたバイオエタノールが出来るということで、すごく期待されておりますので、是非沼田町にそういう研究を更に工場の誘致して、これは沼田町だけで出来なければ、近隣とも連携を取ってやることによって、本当にすばらしい振興に繋がると思いますので、是非考えて欲しいと思います。

それと二つ目なんですけど、今農林省とか文部科学省、あと総務省だと思ったんですけど、その辺がちょっとはっきりしておりませんが、3省が一体となって子供農産漁村プロジェクトということを進めております。これは平成20年度よりモデル事業としておりますので、これはあの、農村に民宿したなかで、農業を体験させて1週間滞在することによって、農家の方にもメリットがあって、その宿泊することによって町にも活性化に繋がりますので、この事業も是非いち早く手をあげて沼田町に事業を進めて欲しいと思います。その辺町長、どうお考えですか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）ご質問のように、バイオ燃料の稲わらの利用というのは、非常に農水の省令によってですね、岡山県で三井造船と岡山県とが共同で今実験を始めている訳ですけど、その成果は具体的に私共は承知しておりませんが、まだ実用には至っていない、そういう現状にあります。ご提案のようにこうした事業というのは今北空知を中心に総合開発期成会で提案しておりますのでは、米の利用を是非やったらどうかということの提案をさせていただいておりますから、そうしたものを北空知、沼田町ということではなくてですね、広域的に北空知の1市5町なりでですね、連携してやっ行って行かないと事業として認められるのは難しいのではないかとそんな風に思っておりますので、これは広域間のなかでですね提案をして検討して行きたいと思っております。仮に十勝地区では十勝地区全体でホクレンとの共同で今やっております。

すので、そうした大きな括りでないとなかなか難しいだろうと思いますから、そういう協議をさせていただきたいという風に思っているところであります。ただ私共逆に、今和牛が140頭くらいのある訳でありますけど、将来的にはまだ和牛を増やして行こうという計画もありますんで、実は飼料がこれだけ高騰しますと、稲わらがその牛の餌、飼料にその非常に最適だということも聞かされておりますので、そうした利用、まあ乾燥だとか色々な条件があるんだそうですけど、それをどうやってクリヤして沼田の稲わらを有効活用するか、この辺も考えながら両方の併用したなかで、明年以降検討させていただきたいという風に思っているところであります。いずれにしましても、稲作地帯でありますので、何らかのかたちで広域的にそういうものが共同で取り組めるとすれば、取り組んで参りたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいという風に思います。

もう1点の農産漁村のですね、共生に伴う体験学習を含めたモデル事業でありますけれども、これは担当の方から今、道の方に照会しましたけれども、道庁の方にはまだそういう情報も入っていないんで、近々入ってきたらですね、そういう情報も各町村にも促したいというお話でありました。お話の様に20年度、今の計画ですと40地区の指定をしたいということでもありますので、私共としてはこれも単独では難しいでしょうから、行政報告でも申し上げましたけれども、小平、幌加内3町の振興協議会の連携の基にですね、この事業を是非導入するように手をあげて行きたいという風に思っておりますので、現段階ではそういう申し込みが来ておりませんから、そういう時期が来ましたら、3町の名前でもって対応させていただきたい、そんな風に思っておりますのでよろしくお願い致します。

○議長（杉本邦雄議長）はい、上野議員。

○6番（上野敏夫議員）本当に前向きな答弁で大事なことだと思っております。本当に最初のバイオマスという燃料につきましては、今畜産ということで、動物だとか生物以外の資源で作られたりしているんですけど、バイオマスのエネルギーには畜産の排泄物だとか生ゴミ、廃棄物系だとかありまして、更に稲わら更に粃殻、木材を伐採した跡に出る林地残量等ミリオバイオマスというようなものがありまして、これが今大型工場が苫小牧に出来るということで新聞に載っておりますけど、国内生産の1千倍の3万1千キロのバイオエタノールが生産可能となります、これが出来ることによってね。これによって道内のビート、甜菜ですね小麦だとか米を原料として温暖化防止にも貢献出来るというと同時に農地の保全と農業を振興することに大きな意義のある取り組みだと私も思っております。このことから北海道の燃料を道内である程度賄えるような研究場を更に工場というのは必要になってきております。これは新聞なんですけど、これが出来ると道内約3万キロリットルのバイオエタノールが製造される予定になっております。

これは全道のガソリンの40%E3相当のバイオエタノール混合燃料にすることが出

来る燃料なんです。このことから是非、稲わらは今研究段階でと言われますけれども、実は私の家にあった稲わらを4年前に三菱重工がくれと言って持ってって、その時は何も教えてくれなかったんですけど、今年になって研究が上手く行ったということで私に教えていただいたので、それで今このようなことで、是非沼田町にもそういうエネルギーを作るような工場を造ることによって、町の名前も広がるし、環境にも優しいエネルギーが沼田町から出来ると思いますので、是非沼田町に造るようにどんどん運動して欲しいと思います。ただしあの、そのなかで先程言った粃殻については、粃殻もエネルギーは出来るんですけどね、これはあの硬い為一工程多くかかるので、やっぱり稲わらが一番発酵させやすく燃料としてアルコールが出来るということなので、やっぱり先に稲わらを是非先に難しいと言わないで、取り組んでいただきたいと思います。

それとあの、もうひとつの方ですけど、子供農産漁村プロジェクトというのは、これは今年の12月の1日、2日グリーンツーリズムネットワーク東京大会の時にそこに行かれた大学の先生が、こないだ会って教えていただいたんですけど、これは全国の小学生5年生120万人が農家民宿させる事業で既に予算化もされております。来年度からモデル事業で入るんですけどね、今町長が連携を取ってやっていただけということなんですけど、これは色んな問題点も定義されてて、私もそれを聞いたんですけど、本当に学校の出す側、また受け入れる側についても色んな問題点が指摘されております。その問題を解決しながら是非、沼田町に進めてもらいたいと思います。それと同時にそれをやることによって、東大生が周囲の学生を対象にアンケートを取った結果を分析するとですね、農業農村のことについて問いかけますと、3つに分かれたんですけど、農業農村を知りたい派、こういうことに興味のある方ですね。それとただ遊びながら農村に行ってみたいという、そういうただの遊びの農業を体験したいという方と、更に農業に無関心派に分かれたんですって。このことによって、分かれたんですけど無関心派の中では、その農村は効率が悪いから無くなっても良いという考えが東大の大学院生がそういう風に意見を言っていたというのは、効率が悪いから無くなってもいいと、この言葉を私も聴いた時にはびっくりしておりますし、是非このことから沼田町はそういうことで運動するべきだと思っておりますし、逆に今農村が都会を支えているという自負のなかで取り組むということも必要だし、農業も能力というか魅力ある農業、農村の教育も沼田町で実感してもらえたら、本物の人としての農業の体験を沼田町でやることによって、子供達の心に染み込んで生きる力を養えると思いますので、是非沼田町から発信する気持ちでもっともっと先に早く手を挙げて取り組んでいただきたいと思いますが、町長もっと早めに進める気持ちをお聞きしたいと思いますけどどうでしょうか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長

○町長（西田篤正町長）あの、先程申し上げましたとおり、まだその国が20年度の

予算の要求の段階での資料が出ている状況ですので、申し込みを早くやれと言われても、なかなかこれは取り組みことが出来ない。しかも、インターネットの情報によりますと、総務省、文部科学省、農林水産省3省に渡っての事業でですね、これから内部を詰めてって40校程度の応募指定をしたい、で100人規模の1週間程度の体験学習ということでありますから、情報が流れ次第ですね、私共としては先程申し上げましたとおり、3町の振興協議会で対応するように、是非道庁或いは関係省庁に働きかけて行きたいという風に思っております。しかしながら、これを実施するとすればですね、これは特に農家の農業を営んでいる農家の皆さん方の協力が無ければ、なかなか難しい問題だと思うんですね。従来ちょっと表現が悪いかもしれませんが、従来どちらかというとならば沼田の農家の皆さん方はそういうものの受け入れというものに対してですね、例えば農家に民泊をすることかというとならばやっぱり100人規模を受け入れるような状況にはなかなかないというのが実態かなという風に思いますので、それで今申し上げました幌加内、小平と3町で分散させることによって沼田でもある程度可能かな、まあそんな判断をしております。こうした問題はですね、農協さんとも充分話し合いをさせていただいて、手を挙げる時には内部体制がきちっと出来ている状況でですね、対応させていただきたいという風に思っております。決して躊躇しているのではなくて、積極的に取り組んで行きたいという気持ちは持っておりますので、担当の地域開発課の方にもアンテナを張って、どういう状況で出せばいいか、或いは動けばいいか、道庁ともよく連携を取るよという話もさせていただいておりますから、積極的に取り組んで行きたいという風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、よろしいですか。次に7番橋場議員、消費税について質問して下さい。

○7番（橋場 守議員）7番、発言通告に相当詳しく書きましたけれども、これまでも消費税の問題で町長と議論したんですけれどもね、財政が厳しくなったらやむを得ないんでないかなというような答弁が何回もあったんですけれど、私あの町長にね、税金の問題、消費税の問題できちっと信念として町長に持っていたいただきたいのは、税金というのは源基本は懊悩主義だと、この立場をしっかりと取るべきだというね、そういう信念に立って欲しいと思うんですよ。そういう意味で色々信念を聞かせてもらうためにですね、ちょっとお話をさせていただきたいと思います。

私ね、消費税は大企業が1円も払っていないんだというのをずっと前から聞いているんですよ。どうしてなんだろうって言うのが分からなかったんでね、そのことを税務課長に是非勉強してもらって、どういうことなのかということ聞かせて欲しいなと思っていたんですよ。町長、そうだと思いますか。そんな馬鹿なと思うでしょう。実はですね、全国商工新聞というところで、民商と言われていたところのね、新聞でね、12月3日に記事が出たんですけれども、あれなんですね、1銭も消費税を負担をし

ていないでいてですね、1兆円から3兆円ぐらいの還付税、消費税を貰っているらしいですよ。これはね、週間アサヒの11月9日にも出たんだけどね、こういうことらしいです。大企業というのは、消費税は要するに中小企業から下の自分の部下の会社から物を買うときにはね、その会社に自分が払わなければならない消費税を被せてしまう。制度上は5%なんだけれども、実態が大企業というのは1銭も負担していないんだそうです。それをこうやって新聞に堂々と書いてある訳ですからね、嘘じゃないんですね。そしてね、この1銭も払っていない大企業が輸出産業では、3兆円も還付金として税金が戻ってくるらしいんですよ。どんなことかということ、輸出するとそのものを外国の消費者から5%貰えない、そういう理屈で輸出した総額に対して5%を国がその輸出産業に企業に還付するんだそうです。こんなことがあるってことね、国民の人が知ったらとんでもないと思うんですね。で、ここに書いてあるのはトヨタ自動車1社で2,860億円も還付を受けていると。で、還付を受けている輸出産業のね、10社だけで1兆59億円、10社だけで。それで還付されている総額が3兆円だというのが新聞に出ました。それでやっと、ああそうかということであつたんですけどね。こんなことをね、我々にきちっと知らされて無いんですよ。ですから私は、町長、これだけ財政が厳しくなった上で、福祉の為の金が少なくなったら仕方無いだろうと、こういう答弁が時々あつたんですけどね、そうじゃ無いんでないかなと思うんですよ。

それでですね、本当に酷いんですよ。2003年から2007年までの5年間で株式配当、それから譲渡益に対する課税が20%から10%に軽減したんだそうです。そして調べた中に書いてあるんですが、株式の譲渡益のなかでものすごく設けている人が居るんですね。最高利益を得ている人が、たった7人で1年で減税されているのが、200億円だということです。こういうのね、状態がある中で我々の方には庶民増税で'07年だけで1兆なんぼ増税になっているんですよ。ところが、大企業のこれ一緒に庶民減税がなされた時にね、大企業にまけてやった税金、そのまま7年も終わりだったんだけど、とりあえず1年延長されて8年もそうなるんだそうです。こんな状況のなかで消費税を上げよう、上げようと盛んにキャンペーンされているんですね。それはですね、あの経済財政諮問会議と言うんですか、あの福田総理が議長になって民間人が4人入っているそうです。議会にね。主要な大臣が入って。その中で経団連の御手洗さんという会長がね、法人税をもっと安くすれと30%のやつを20%にすれと要求を国にしているんですよ。それでね、その財源をどうするんだって記者に聞かれたそうなんです。そしたら御手洗さんがこう言ったんだって。我々のビジョン、2011年までに消費税を2%上げろと、15年までに3%くらい上げろということを明確に私達は要求しているということです。消費税だけなんです、自分達の税金は下げて、その下げた分をどこで埋めるだっていったら、消費税だということをはっきり言っているんだということです。ですから私はこういうことをき

ちっと捕まえてね、町民の人たちにね、どんどん知らせて、やっぱりその不当性をね、議員始め町長始めですね、我々もね、やっぱり宣伝していかなければならないのではないかなと思うんですよね。

それから私達、消費税を上げない為には軍備を縮小すれと要求しているんですけども、いや、そんなこと言ったってテロがこんなに、はび混んでいるから仕様が無いだと、こう言うんですけどね6年間テロをやっつけるということで戦争をやったけど、全然テロが無くならないんですね。ここに中村テツさんという方がね、アフガニスタンにもう23年もあそこに行ってね、色んなボランティア活動を、お医者さんなんですよ。で、大変な状況になるんで、病院を建ててあちこちでそういう人たちを無料で診てあげるといふのかな、そういう活動をして来た人なんですけどね、イラク戦争が始まってからはね、この人はとてもじゃないけど医者なんかやってられないんだそうですよ。で、まずとにかく異常気象も含めて、今まで農業をやれていたのがどんどんやれなくなっているらしいんですよ。この中村テツさんは重機に乗って4年間白衣を着ることが無いというんですよ。まず食べれるようにしてやらなかったらね、駄目だということで命も大切だけど衣料も大切だけど、まず生きていけることが大事だということで、こうやっているんだどうです。この人がね、これまでは裏の人に守られてきたけれども、自衛隊がイラク戦争に参加するようになってからね、危なくてもう、こういうことも出来なくなってきたと言うんですよ。ですからもうテロとの戦いというのは軍備ではなくて、本当に平和の話し合いのなかでね、やるしかもうテロを無くされないんじゃないかと思うんですよ。そういうことで言うと軍備は本当に縮小出来るのでは無いか、特に今度の守屋なんとかさんのあれを見たらね、めちゃくちゃですよ。ここのそういう軍事産業からですね、自民党に平成6年だけにこの軍事産業の上位15社のうちの11社からですね、自民党の政治団体、国民政治協会1億9千万円を政治献金されているんですよ。ですから、消費税は上げるけど軍備は減らさないというのがね、国の流れだと思うんですけど、これらはやっぱりはっきり、国に対して町長頑張って、キャンペーンを張ってもらえばね、消費税の値上げに反対ね。あの、あれですね、後期高齢者の問題でも今見直ししなければならない、結局参議院選挙でね、自民党は駄目だと公明党は駄目だと票がたくさん入ったんですよ。で、それによって色んな運動が出て、国民の声で政治が動き始めているんですよ。ですからそういう意味で消費税値上げは絶対間違っているということをね、是非町長も頑張っただけで欲しいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）まあ、最終的に消費税を増税することに対して反対してくれと、反対した方が良いというご意見ですけども、私は前々から申し上げておりますように、それぞれ税の議論もありましたけれども、これは私も新聞等を良く見させていただいてですね、やはり現状を考えるとやっぱり今の国の財政というのは非常に厳し

い状況にある。それが地方にも大きな影響を及ぼしてますし、今回の年金問題についてもですね、本当に国民が望むような解決が出来るかどうか、このことは本当に私共も心配してますし、声を大きくして言って行かなければならないと思いますけれども、やはり社会保障全体ですね、前々から申し上げておりますように医療や福祉や年金の費用というのが、やはり非常に厳しい状況に置かれている。これはうちの厚生病院が危ない危ないというのもそういうところから来ている訳でありますけれども、そうした状況だとすればですね、やはりその消費税、特定の財源として社会福祉の面の財源としていくらかやっぱりそれを充当するというのも、これもやはり国民の期待に応えるひとつののかなと私個人はそう思っております。おっしゃられた色々な大企業ですとか軍事費だとか色々な論議がありましたけれども、それらについてはやっぱりそれぞれの国民一人ひとりがですね、自分の考え方によって選んだ国会議員の先生方が、それぞれの判断で議決をし、国のためにそういう実行しているんだろうと理解をさせていただいておりますので、よっぽど常識から外れたと言いますか、そういうことになると、悪いんですけど今回の参議院選挙の結果が出るんだろうと思います。これはやっぱり大きな結果として、自由民主党、政権与党もですね、そういう意味では反省もして今地方に出来るだけ手厚くやりましょう、とそういう方向転換をせざるを得なかったのかなと思いますから、今色々なお話があったことについてもですね、そうした国民一人ひとりのやっぱり判断が、まあ衆議院選挙も近いということですから、そういうなかで出てくるのかなという風に思っているところであります。答弁になったのかどうか分かりませんが、そういう様な考え方でおりますのでよろしくお願ひ致したいと思ひます。

○議長（杉本邦雄議長）はい、橋場議員。

○7番（橋場 守議員）私達せっかん講習というのをやったなかで、時代ですね、記憶があるんですけども、昭和59年まではですね所得税の最高税率75%だったんですよ。75%。それがずんずん下げられてきて、確かね最高税率が50%の時代にね、税制がころっと変わってね、こういうことだったんですよ。その時代には総合課税にするか分離課税にするかというのね、貯金の利子だとかそういういのね、課税についてはね、分離課税でも総合課税でも良かったんですよ。そうすると我々みたいな貧乏人はね、貯金の利子を収入にして総合課税にしてもね、税金がかかってこないんですよ。ところが、所得税の方では例えば50%限度額がなっているんですね、そこへ貯金の利子を何億という利子を持っている人たちが居るわけだから、それが総合課税でこっち入ったんじゃないね、とてもじゃないけど50%取られると。その時は分離課税が確か35%だったと思うんですよ。そうすると、15%分離課税で大金持ちが申告すると儲かるんですよ。それをですね、今のように税率も下げたけれども、貯金の利子は全て分離課税ビタッとされた。したらわずかばかりの利子を貰っている人がね、税金をかけられないように総合課税に出来なくなりましたよ。そんなね、

でたらめなことばかりやってね、庶民が苦しめられてきているんですよ。今10円利子があったら2円税金として取られている訳でしょ。昔は総合課税出来たときは、それは無いんですよ。そういう風にしてどんどんね庶民だけが損するような方法ね、やられてきています。私はその辺りをです、是非とも懊悩主義が原則だということ、を堅持して、是非色々頑張りたいなと思っています。

○議長（杉本邦雄議長） それでは、次の質問からはちょっと休憩して始めたいと思いますので、ここで半まで休憩致しますのでよろしくお願いします。

14時18分 休憩

14時31分 再会

○議長（杉本邦雄議長） それでは、再会致します。7番橋場議員、農業問題について質問して下さい。

○7番（橋場 守議員） 請願も出ているんです、簡単にあれしたいと思うんですけども、先程ね、何とかの集会で効率が悪いから、農業というのは効率が悪いから税金投入すべきで無いような話があったんで、大学生からね発言があったんでね、びっくりしたと、聞いてびっくりしたって言われたんですけどね、実は日本の農業を要らないといっているのは大学生じゃなくて、大企業と政府なんですよ。そのところでびっくりしてもらった方がいいなと思ってるんですけど、大変な状況でこれだけ国の言うとおりに規模を拡大してきて、それでなお農家の人たちが大変だ大変だと言っているんですよ、やっぱり根本を直さなければ駄目なんじゃないかなと思うんですけども、今年の生産者米価がどうなるかということで、大分心配してしていた様でありますけれども、本州からみて北海道は大変良い値段で買って貰えたという話だったので、特に空知、北空知はね、作況も良くてということで本当に喜んでいる訳ですけども、生産者米価の下落したのは1995年からと言われているんですよ。それは要するにあの、絶対に米の輸入自由化はやらないと言ってきたんですけども、規模拡大して世界の農業と太刀打ちできる方向でと言って規模拡大進めて行って、その挙句の果ては輸入を自由化、半分ね、ある程度されてしまったと、米が輸入されるようになってきた、それから下がってきたということですね。稲作農家の時給というのが昨年で1時間256円だって計算されているんです。本当なんですかね。こんなんじゃないけど食べていけないですよ。実はですね、全国農民運動連絡協議会というのがあって、さっき言った民商というの、これは商工会の中で大企業の方の商工会とは別に分かれてね、中小企業もどうしても頑張ろうということで、作った商工会なんですけども、農業の中にも国の政策と戦うという団体がありまして、それがあの、国に対してですね、10月1日だけにですね、政府交渉をやったんだそうですね。それで北海道からも行きましたんですけども、その中で年内に100万トン備蓄の水準にすれということで34万トン不足分をね、買い入れしてくれるように

なったと。それで、100万トン備蓄水準にして、その備蓄米を販売するのを抑制させるということも一応約束させたそうでもあります。それで、全国農民中央会ですか、全農中央会が抱えている10万トンも飼料用にするということが、大体流れとしてあったそうですね。全中の集会で12月6日に農協組合長だとか、今東京に1,000人くらい集まって集会を開いたそうでもあります。福井県のある農協集会でですね、むしろばたを掲げてデモ行進をやって国に要求した集会があったんですけども、そこに出た組合長が本当に今の道政は駄目だということで頑張っていたんですけど、そういう点ではね、沼田町長、西田町長がね呼びかけてここで農民集会やったんですよ。町民会館で。ところがその後、他の農協、町でもって伝播するかと思ったら全くしなかった。これじゃやっぱり、米価を安定させたり、農業を守ることは出来ないんじゃないかなと思います。そういう意味で、やっぱりむしろばたを立てるくらいのね頑張り、ただ沼田の関係ではなかなかいい状況になっているからね、俺らはいいわっている状況になるかもしれませんがですけども、私は消費者の立場から本当にどんな状況になっても食べ物に不安を感じないように需給率を高めて欲しいと思っています。そういうね、農民の人たちの運動があってしかるべきだと思うんですね。自分だけの要求ではなくて、日本の農業を守るんだ、国民の食料をちゃんと需給するんだというね、そういう自覚で運動を進めて行ってもらいたいなと思うんですがどうでしょうか。大企業財界は農業への税金投入は無駄と、食料は安いところから買えば良いとこの方針をね、どうしてもやっぱり止めさせるような運動が必要ではないかと思うんですがいかがでしょうか。

それから、国営農地再編整備事業についてね、この間課長から色々説明がありまして、その後でまた色々とお話があるんだと思うんでね、ただちょっと大変な状況になっているということを知りましたので、私は基盤整備というのは必要だと思うんですけども、やはり基本は生産費と所得を償う農産物の価格を本当に意味で要求しなかったらね、基盤整備だけでは、規模拡大したけれども営農は楽になかなか来ない状況と同じようにね、なると思うんですね。そういった意味でやっぱり運動として、所得と生産費を償う価格補償を国に要求する運動が必要では無いかと思うんです。昔ですね、まだこんな風に農業がこんな風になる前の時代にね、そういう後継者の問題を議論したことがあるんですよ。ところが、後継者というけどね農業をやっている人のね、息子さん達が娘さん達が、娘さんは他に嫁さんに行くと、農家には嫁がない。後継者である男の人でも出てしまうというんでね、一時期ですね、町長や農協組合長が頑張っている息子さんたち、親もね説得してなんとか息子が農業に戻ってくれないかとそういう運動をしたところもあるんですよ。ところが今ではそんなことじゃちょっと誰も「ウン」と言わないじゃないかと思うんで、是非ともね、喜んで帰ってくる、息子たちが帰ってきて後継者になってくれるようなね、農業政策を所得とそれを経営をきちんと安定出来るようなね、農業政策でなければそれは出来ないと思うので、そ

れは是非そういう点でもね、頑張っただけ欲しいなと思っただけなんですがいかがでしょう。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）一つめの関係につきましては、やっぱりあの独立国家として需給率を一定の率を維持するというのは、これは必要なことですから、やはりあの、農業を国の施策のなかで守って行かんきゃならん、これはもう当然のことだろうという風に思います。従来から言われているのは日本の農業、農政はですね、要するに農家自身のことも考えていないし、国の農業の在り方という柱もしっかりしていない、ぐらついたまんまだという話ですね、ですからやっぱりその辺は町村会もですね、今の品目横断的な経営安定対策についても、非常に問題があるということは前々から言っている訳でありますけれども、いかんせんあの、またこれを言うと怒られますけれども、農業団体の団体長さんのグループが大体了承しちゃうんですよ、先に。町村長は後でそういうことが聞かされるというのが、農業、農政の現実なんですね。ですからやっぱりもうちょっとそういう意味では、中央会だとかそういうところと町村会の本部とよく話し合いをしながら取り組みをやっぱりやって行く必要があるのかなという風に思っております。あの、いずれにしても良い物を作って安心、安全な食料を届けるというのはやっぱり国民にとっても有難いことですし、農家の使命、そのためにやっぱり所得を補償してやらないとそういうことが出来ないということは、前々から私もそう思っておりますし、そういうような発言をあちこちでさせていただいておりますので、ご理解いただきたいという風に思います。是非あの橋場さんの支援する共産党さんもですね、そういう意味では是非あの運動を展開していただければという風に思います。

国営農地につきましては、先ほど課長から説明を聞いたということでもありますけれども、あの確かに将来的に考えると整備は必要だということは認識を農家の皆さん方はしているんですけれども、やはりあのその期間、工事中の所得の補償、それからもうひとつは農業者の負担の軽減をどうするかということ、或いはあの10%の転換、これらは大きな問題で私も会合の折にも開発局に要望を致しました。しかしながら北海道の為のその施策、北海道ばかり優遇しているじゃないかという全国的な発言のなかで、これ以上やっぱり譲歩は出来ないという発言がものすごい強いんです。ですから私どもとして、本当に農家の皆さん方がこういう条件ならやれる、という条件を出していただければですね、国に対して農協さん、或いは改良区さんと連携をしながら一定の条件を確保するために、或いは行政としても沼田町としてもどこまで支援が出来るかという議論を議会ともさせていただきたいとそんな風に思っているところではありますが、今のところまだ農家の皆さん自身がですね、決断が出来ないと言いますか、あの逆に言うと町がどこまで支援してくれるのかという論議にまだなっているようでもありますので、私共としては行政にどこをどういう風に望むかということをしつかり出していただく、或いは国に対してどこまで譲歩してどこまでやってくれるんであれ

ば取り組めるとかね、そういうような明確に出していただける様に、またお話をさせていただきます。という風に思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、橋場議員。

○7番（橋場 守議員）あの、再編事業について言えばね、総工費の7%が地元負担だと。そして、農民負担ね、町が4%被るとすれば農民が3%だと。そうするとね、3%以外は税金なんですよ。私の納めた税金の何万分の1かもあおこに入っている訳なんですよ。だから私たち消費者としてね、せっかく農家の為につき込んだはずなのに、それがですね、後継者がどんどん居なくなって基盤整備はきちっとできたけど、後継者が居なくなって大企業には明け渡すようなね、こういうことになったらね、我々何のために、農家の人のためにと思って投入した税金がね、本当に大企業のために奪われてしまうということなんですよ。そういうことの無いように是非、あの努力していただきたいなと後継者を育てるということにね、まあ研修に行ってみただけどこれはなかなか難しいな、町長に言っても仕様が無いことだなど思うんだけどね、まあね、本当に1町で出来るもんでないからさ、やっぱり大きな運動でね、国を動かすしかないなと思ってるんですけど、まあそういう風に我々が納めた税金が農家の人では無くて、大企業の為になってしまうようなことの無いように頑張って欲しいなと思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、答弁要らないですね。答弁要りますか。

○7番（橋場 守議員）いや、いいです。あの本当はしてもらわなきゃならないんですけど、いいです。

○議長（杉本邦雄議長）それでは後期高齢者医療制度について質問して下さい。

○7番（橋場 守議員）道議会でも議論になりまして、住民に周知徹底するようということをして市町村にもね通達を出すとかと言う事で資料も来ているみたいなんですけどね、これだけではちょっと分からないと思うんですよ。これだけじゃね。ですからね他の町では結構町が話をした。地方に出て行って説明会をやっているようなんですよ、やっぱり是非その説明会をやって欲しいと思うんですよ。この沼田町の議会では、これは凍結しなさいというちょっと凍結というやつで出したんですけど、凍結ではちょっと解けてしまうのでまずいんですけども、そういう理解で意見書を出しますから、我々議員としてはやっぱり町長がそういう集会を開いてもらえば行って実際にはこれは大変な状況だと住民の人にアピールしていく必要があると思う。そういう形で運動を広げていかないと、町長もこれはとてもじゃないけど矛盾だらけだと、言っているだけじゃ中々国も動きませんし、私ちょっと、恥ずかしいんですけど、今100人ぐらいの反対の署名を取って今国に送るんですけど、これじゃ全然足りないんです。皆さんで是非そういう署名をしながらこれは凍結でなくて撤回をさせる必要があると思うのですが町長は如何ですか。とにかく医療費の抑制ということが先頭になって年寄り、年を取ったらここに色々な格好いい事書いているけど、要するに病院にかからせないという中身なのです。おまけに他の医療制度もそうなんですけれども、

保険で見れない医療を今拡大しようとしている。一般の人たちのも。それはなぜかと言うと、これうそみたいな話、そんなこと無いと言われるかも知れないけれども、アメリカの差し金なんです。医療をどんどん削って保険で見てもらえないようにすれば医療保険もテレビでもの凄いやっている。その医療保険にあれみんなアメリカの資本が来ている、みんなに保険に入ってもらって病院代を縮小して保険で儲けるという事のアメリカからの圧力である。このようなことは中々信じてもらえだろけれども、そう言う意味でやっぱり人間最後まで人間として誇りを持って生きられるように医療面でやってもらいたいと、やらなきゃ駄目だという立場で是非奮闘して頂きたいと思いますが如何でしょうか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）医療制度ですか、介護保険制度前々から私が申し上げていきますように、これらは国の施策の中でやるべき事だと私は思っています。例えば後期医療制度、これは北海道を一つにしての連合です。それから介護保険は各市町村単位。こんなことが住んでいる町だとか、都道府県によってそう言うその保険料も違ふとかそんなことがあり得る訳がないと思う。ですからこれは町村会も今渋々やっぱりやらざるを得ません。4月からスタートしますから、でそれで要するに市町村に対する財政措置をもう少し強めなさいと、その財源が補填されないとすれば本当に反対しますよと言うぐらいの事を今町村会に言っていますので、これはそんな事を言うと自民党の支部長さんもいらっしゃいますので、参議院の選挙であれだけの結果が出たものですか、結局半年間遅らすとか、1年遅らすとかと言う結果が出たと思う。ですから周知をしていないと言う事は私ども認めますけども、周知するまでなっていなかった、きちんと決まらなくて、今やっと全体決まりましたので、いい悪いと言う事は住民説明会では申しあげられませんが、実態はこういう保険ですよと言う医療制度ですよという事をきちんと説明して大きな声になれば相当やっぱり国も考えてくるのではないかと思います。私も橋場議員がおっしゃるようにこれは国民一人一人の生涯それをその例えば市町村がみる、国都道府県がみる、あるは、国がみるとかという差があつてはいかんと思っていますので、基本的にはやっぱりこの後期高齢者医療制度については反対の姿勢で今ずっと来ておりますから、今後もそう言う姿勢で出来るだけ早い時期に改正されるように努力して行きたいと思っております。こんな田舎の町の首長ですから何処まで声が届くか分かりませんが、そんな気持ちでおります。

○議長（杉本邦雄議長）はいよろしいですか。

○議長（杉本邦雄議長）次に1番津川議員、農産物販売促進におけるJAとの連携についてを質問して下さい。

○1番（津川均議員）1番津川です。国際的な話からですね、急にローカルな方へ移ってしまつて本当に申し訳ないんですけども、農産物、特に米に主眼を置きながら農協との連携について質問させて頂きたいと思っております。前にもこの関係では質問申し

上げたのですが、その時はもう農協の事務所内に対策室があってそれを撤退する、その後農協との連携が悪くなるのではとの懸念から質問をさせてもらったのですが、今又情勢が少しずつ変わりつつありますので、その後どう言うふうな体制に変わって来ているのかお伺いしたいと思いますけれども、対策室が無くなってから中々農協との連携が取りにくくなったというふうに私どもは捉えております。で、実際にですね農協の職員さんに聞いても実は企画会議ですか、中心になるのはそういった会議で連携を取っているという話ですけども、それがそんなに頻繁に行われているのかどうか、更に前回はとにかく米の価格が安かったものですから、何とか連携を取って有利販売をして、農家の人たちに、組合員に生産者に1円でも多く戻せるようなそういう価格体系まで取って欲しいと言うことで質問させて頂いたのですが、先ずですね、その後どう言った連携の取り方しているのか、今言った企画会議もどれくらいの回数もたれているのかそれ以外に農協とはどういうふうな連携を取っているのかという事をお伺いしたいと思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）おっしゃられる通り、やっぱり農協三町の農協が合併したことによってですね、三町それぞれの違いもありまして、中々やっぱりこう従来のように一農協、一町一農協というそういう連携というのは難しい状況になって来たのかなあというふうに思っております。しかしながら、ごく最近石田専務とも話をさせて頂きましたら、是非やっぱり沼田独自のものを確立するために話し合いをしたいとの意向も向こうのほうからも伝えられましたので、私どもとしては明年に向けてですね予算編成もありますので、どうゆうふうな方向で沼田の今おっしゃるような懸案事項をお互いに認識をしてどう進めるかという事の対応等についても話し合いをさせて頂きたいと思っております。これが対策室が無くなったからとか何とかと言うよりもやっぱり相手が、農協が三農協が一つになったという事がやっぱり大きな疎遠と申しますが従来とは違った関係になって来た要因かなと私はそういうふうに判断させて頂いております。企画会議だとかその他については細部にわたっての連携については、生沼課長、農振の生沼課長から答弁させて頂きます。

○議長（杉本邦雄議長）はい、課長

○農業振興課長（生沼篤司課長）私ども行政側の担当と農協あるいは普及所、改良区そういう関連団体との担当同士の会議、企画班会議と言う名前で進めておりますけども、これは定期的にとということでも無いのですが、年に四から五回は開催しながらやっております。これは毎年それだけの数をきちんとやっているかというところではございませんけども、大体平均してそれくらいの回数は開いているように記憶しております。そこで大筋ですねその直々の懸案事項を例えば今の時期ですと、次年度の予算をどうくみ上げるのかとそんな相談をしたりとかやっております、あと年度に入りましてからもその時々懸案事項を細かくどういうふうに展開してかとそんな連携を取

りながら事業の展開を進めているところであります。その他、個別案件と言いますか、その会議を開かないまでも担当同士かなり密に連携を連絡を取り合うように形は作っておりましたので、以前のようなそのような体制は無いとは言いながらもそれほど事務の業務の執行に影響が出るほどの連携のまずさではないのかなと私なりに感じてはいるところです。

○議長（杉本邦雄議長）はい、津川議員

○1番（津川均議員）連携をしっかりと取っているというお話ですけども、中々そうはなっていないのではという気がするんですよ。先日農協から要請ございましたよね、その折に実は今年の米から雪中米を通年販売するんだと町長はご存知無かった。そのことを、これは今年の2月か3月位からですねJAがやりたい、通年販売するんだという方向を決めていたみたいですから、当然その辺の話は皆さんのところに通じているはずなんです。町長も色々なところへ行ってやっぱり雪中米の宣伝をされるその時に町長がそれを知らなかったのは何処か連携が取れていないのではという気がしております、是非その辺も今後再度検討しなおして欲しいというふうに思います。何よりもやはり一番厳しいのは米の価格現在の価格でございまして、今年の価格についても9300円の仮渡し、これに農協の経営対策費が入ってようやく1万円という相変わらずの低価格でございまして、ご存知のように今年3月に農協の役員改選がございました。長い間本当に農業に貢献されてきた岡田組合長さんが勇退をされました、やはり岡田組合長さんは素晴らしい人だと私は思っておりますけども、ただこの米の販売についてはやはり系統中心に売っていかなきゃいけないそれは米だけでなく蕎麦もあれば、豆もあるし、麦もあると色んな事から考えるとやっぱり系統から離れるべきでないという考え方が強かった方でございますから、中々JA販売と申しますか独自のJAの販売と言うものに手を出さなかった堅実な方でございます。但し、それだけに言ってみれば道東の米もこの辺の最高ランクの米もプール計算ですからどうしても1万円を若干超える程度の最終清算しかないという状況でございます。で、今回役員改選をされて今町長さんからもお話ありましたように、石田さんが専務になられた、石田専務というのはやはり前からそういった気持ちも若干持っていた所もあると思うのですけども、今年お聞きしますと今年の市場周りなんかは殆ど専務さんがやっておられるという事でございまして、今年播種契約ですか、そういった物も手かげて来られている、正に今JA販売を少しずつ開花させていこうと、米は米、他の物は他の物という感覚がやっぱり前の岡田組合長さんより強いのかなという気が致しております、こういった時だからこそ是非これまで以上に連携を取って蜜に取りながら、そういった物をどんどん促進していく是非その後押しをやっぱり行政がしなきゃいけないんだと言うふうに私は思うんです。今台湾だとかハワイだとか、これは食創さんが中心で行ってもらっている訳ですけども、そういった分野に、あるいはそれ以外の所でも消費地を広げていくそういった連携を是非とって頂きたいというふ

うに思っていますので、その辺の考え方も是非、これから具体的にもう少しどういった方法で進めていくのかお伺いしたいと重います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長） どうも誤解を招いたのかも知れませんが、私はその雪中、雪を入れてその年間販売するんだと言うのは承知をしておりました。というのは台湾に出す以上はやっぱりそう言う扱いにしなければ駄目だと聞いていましたので、理解してはいたんですけども、ただ、年間通じて雪がそこに入っていたのかというのが疑問ですね、それと農協の時もお話したのは、まあ北海道内であれば雪中米、何箇所かで売っていますけども、道外に行ったら全く売れていないという話をさせて頂きました。

ですから、今おっしゃるように、そうした意味ではですね、もっと農協さん自身が戦略性をやっぱり考える必要があるのかなと思います。要するにまあ行政が後押しをせよと言う事がありますから、その戦略的な事が分かれば行政としてもやっぱりそういう後押しをしたいと思います。それとその農協との話の中で雑談的にお話したのは、せめてその雪中米、ようするにその分だけでも単一農協ですか、沼田農協が、旧の沼田農協が自主販売の枠として持っている量があるんだとしたらその雪中米をそこに全部当てはめてしまったらどうかと、そうするときと札幌近辺でもそうですけども、やっぱり雪中米を欲しいという方も結構いらっしゃる。そうすると今の価格の差は必ず出てくると思います。そう言う販売のあり方も検討すべきではないだろうかと農業振興課のほうに今言っている訳でありますけども、その辺を中心に今おっしゃる石田専務とよく話をさせて頂いてですね、やっぱりものをやるからには戦略性をもってやらなきゃなら駄目だろうと、それからまもなく農家の皆さん方も台湾の方へもう1回訪問という事で、まあ内の行政職員も1名つける予定をしていますけども、その折もやっぱりそれじゃ行って帰ってきた時にその後何をするんだという事を、何の目的で向こうに行く、ただ宣伝に行くということだけでなく、その後何に繋げられるかということをしつかりとその向こうの市場を見たりして帰って来なきゃ駄目ですよと、それを農協がしつかりやる気になってもらわないと行政の後押しは出来ないんだという話をさせて頂いているんですよ。ですから雪中米の台湾に出した時も、ホクレンさんとの色々なトラブルもありました、実際に2回目の出荷セレモニーにもホクレンさん農協さんも誰も来ませんでしたからね。それは、要するに色々なトラブルがあったという事なんです。しかしながら、やっぱり民間の米の販売者がですね一生懸命にやってくれたおかげで今続いている訳でありますけども、そうした面もやっぱり農協の戦略性の中で考えれば雪中米というのはもう別枠でいいんじゃないかと。というのは行政も相当のやっぱりその苦勞をしているんですね、財源的なあれから色々な面で、そうするとあれはもう町の財産として出来たもんですから、そこで出来たものをどうやって付加価値を高めて農家の皆さん方の所得をあげるのをお互いにやっぱりよく話

し合いをしてやるべき事だろうというふうに思います。今までの戦略は戦略としてそれは当初の約束があったようですから、それは出来なかったかもしれませんが、今は時代的にもかなりの年数が経ちましたし、それから米の品質ももう誇れるだけの品質になりましたので、その独自性というのはやっぱりある程度出してもいいのかなとそんなふうに思っておりますので、年明けぐらいに十分話し合いをさせて頂いて、その中に農業委員会の会長さんですとか、様々の農業団体の皆さん方も参加頂いてですねよく沼田の農業のためにどうあるべきかという事をもう少し論議をさせて頂ければというふうに思っています。

○議長（杉本邦雄議長）はい、津川議員

○1番（津川均議員）三年連続の豊作で、質も全国的にもかなり評価はいいと、今年道産米の北海道の食率がずいぶん上がって実はその内地へ行く米が足りないと、7万トン足りないそうです。こういう時になんで本当にホクレンは下手糞だなど、質も上がっている、むこうから折角欲しいと言われて7万トンまだ北海道の米が欲しいと言われていて、価格が何で上げられないんだと、それはもうその前からずっと相対で殆どが取引されてしまっているから、このシステムを変えなきゃいけないと思うんですよ、そうしないとやっぱり我々の米はいつまで経っても道東や道南の米と一緒に変わりなく価格が設定されてしまう。だから是非このシステムのところも是非JAと又十分協議をして、ホクレンもやっぱりいいものを出している、いい品物を出すところにはいい価格を返してくれないと本当に真面目にやっている農家がつぶれてしまいますので、是非その辺のシステムも変えるようお願いして質問を終わりたいと思います。答弁は結構です。

○議長（杉本邦雄議長）それでは、次に移ります。10番渡邊議員、後継者育成と就業支援について質問して下さい。

○10番（渡邊敏昭議員）10番渡邊です。私は町長に農業と言うものを中心におきまして、後継者育成と就業支援と言うことでお伺いしたいと思います。で、今回の町長の行政報告にもありましたし、今方他の議員さんの話もありましたように、北空知の米の作柄は104と言うことで、三年連続の豊作基調になっています。で、中でも沼田町は108程度と伺っていますので、それに他の農産物も奏して豊作基調にあると、で基幹産業の農業の作柄が良かったことは本当に大変喜ばしいことだと私も思っていますが、まあ如何せん国の農業政策の失敗からか、自給率の低下と農産物価格の低迷を招き、とてもサラリーマン並みの所得確保には至っていないのが現状ではないかと思えます。かろうじて先ほどからも話がありましたけども、3年連続の豊作が農家の命を繋いでいるような格好になっているのではないかと思います。こんな情勢の中で、私ことにはなるかも知れませんが、町外でサラリーマンをしている息子に帰って来いとは中々言えないのが現状でございます。まあ、ちょっと話は変えますけども、今年の田植え作業の最中にですね、苗や機械に水をかける為のプラスチックのバケツ

ですね、10リッター程のバケツなんですけども、そのバケツを壊してしまいまして、手伝いに来てくれた人に町にバケツを買いに行ってくいやと行かしたんですけど、1時間以上たっても中々帰ってこないののでどうしたんかなと思いましたが、深川のあの某ホームセンターまでバケツを買いに行っていた。で、これ何を言いたいかと言いますと、金物屋さんが沼田の町に無くなったことによりまして、土建業を始め色々な業種の人が本当に不便な思いをしていると、でこれは単に店が一つ無くなっただけでなくてね、ついでにとかまとめてとかと言う訳で他の物も他町村で買うようになってしまうことで、幸いにも商工会や青年部が本当に頑張っていて沼田にはまだまだ元気なお店もありますが、既に無くなった業種もあります。中心部はかなり歯抜けに状態になっていますので、老舗と言われる商店も少しずつなんか消えつつあるんじゃないかと思えます。で、町長今まで何度もこのような質問に答えて来てくれたんじゃないかと思えますが、今一度農業をも含めた中で商工業者の育成とかそういうものについてどのようにお考えかお伺いしたいと思えます。

○議長（杉本邦雄議長）つづけて、2，3やってください。

○10番（渡邊敏昭議員）はい、いいですか。それでは、二つ目三つ目とまあ関連と言うことで、いくつか出させて頂いていますので、まとめてそれじゃ、出させてもらいますので、一気に答えて頂ければと思えますけれども。まあ、冒頭私の家の例を述べましたが、農家を例にすれば後を継いでいるか継いでいないか継がせようと思えば継がせられる農家がかかなりいるというふうにも聞いています。それにはまず先ほど来からも話しが出ていますけども、安定した所得が得られるようになる事が一番だと思いますが、なかなか就業した人たちに聞いてみると、まあ要するに後継者となられたと言う事ですね、農業も商業もそうですけども、安定した経営でなければ中々難しいと言うふうに聞かされています。で、更に農業で言いますと、Uターン農業なんかで就職すると新分野参入や機械の更新とまあ農地の拡大をして住宅の問題まで抱えたような形の中でお店だったら改装だとか新装と言う事になるんじゃないかと思えますけども、本当に大変だと言うことを聞かされております。で、農業の新規就業等農業支援とかそういうものと商店の青色申告経営の後継ですか、法人の経営伝達とは違うと言うふうに思えますけども、Uターン支援だとか、新規就農ですねそれらの専従者になっている者への後継者育成も強力に推し進めていかなければいけないんじゃないかというふうに考えています。その点についてお伺いしたいなと思えます。で、三つ目ですけども、これはほとんど農業になると思えますけども、特にこの問題については農業委員会等が中心になって考えるべきでないかと思えますけど、実際に農業後継者になられても嫁さんが中々来ないとこのような問題が本当に深刻な所に行っているのではと思えます。町として町長として何かパンチの効いたような方策は無いかお伺いしたいとこのように思えます。3つ宜しくお伺いいたします。

○議長（杉本邦雄議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）現状農業商業を振興させるためにどうしたらいいのかと言うことでもありますけども、これは中々やっぱり小さな行政だけではやれることではないだろうと思っています。やっぱりそれぞれ国の規制緩和ですとか農業政策ですとかその中で商業であればその商業に従事した方たちが生活できるだけのその販売がない。農業にしてみるとそれだけの所得保障が無いことに繋がっているんだろうと思うんですけども、商業については今規制緩和をやったところがですねそんな大きな影響がでたと言うことで大型店の進出禁止だとか色々また規制をかけて来てますけど、時すでに遅しという事で沼田の状況を見ますと恐らくまだまだ店舗の閉店は続くだろうと思います。と言いますのは、やっぱり高齢者の方が経営していたりですね、それから近隣に大型店が依然としてまだありますからそちらの方で購買をする。時々私も聞きますけども深川のマックスバリューだとか行ったら沼田の人で一杯だというくらいだそうですから、そうなりますと地元の商店が頑張ってもやっぱり中々厳しいのかなと言うふうに思っております。ただやっぱり私どもとしてはふるさとクーポン券ですとか、様々な形でやっぱり商工業の支援をしながら、何とか活力を持って頂きたいそうゆうふうに思っているところでもありますけども、なによりやっぱり町民の皆さん一人一人がですね、地元でそうしたその商店が必要なんだという意識に立って地元の店を可愛がってもらおう。それから商店も皆さん方も今積極的にやっているという評価を頂いていますけども、そうゆう事がやっぱり絡み合っただけで初めてその商工業の維持が出来るのかなとそんなふうに私は常日頃思っております。自分手前で申し訳ありませんけども、うちの娘はわざわざ札幌から来て高田さんで冬タイヤを買って帰りましたけども、お米は全部札幌の近所の友達の方もまとめて沼田から買って行くという状況ですね。やっぱりこれもやっぱりふるさとを思うその生まれ故郷を思う心の一つだと思うんですけども、そう言うものを生かしながらでもやっぱり地元の消費を高めるこれも必要だと思いますけども、申し上げましたように、何よりもやっぱり今住んでいる人たちが地元の商店を可愛がる姿勢、これが大事なのかなと思います。特に最近聞くのは高齢者の皆さんと非常に冬やっぱり遠くまで買い物に行けないので地元で買おうと思うんですけども地元のお店に中々自分の欲しいものが無い、先ほどのバケツの話ではありませんけどもね、そうゆうお話も聞きますので、何とか週に一度ぐらいその例えばふるさと市場をやった沼田食品でやったあれだけの人が集まるのですからそうゆう所で月に2回なりということで商工会が中心になってそうゆう共同店舗みたいなものを作る事も一つの方法なのかと、それから、ある場所によっては高齢者の世帯今度なんか要介護、援護世帯の名簿を作るとかという話もこの間自治振興協議会で出ていましたけど、そうゆう名簿の元に逆に商店から電話を入れるなんだそうですね、今日は何か要るものは必要なものはありますか、それを要するに注文を受けてぐるっと配達をして帰ってくるのが今結構小さな町ではそうゆうあれが出来ているようです。これは極端に言うとバスも何も走っていないような所でそうゆう事をやっている所もあるようで

すけども、そうした知恵をやっぱり借りながらですね、何とかやっていかなければ、これはなんとしてもどうしようもないのかという気がいたします。ただ私ども行政としては和風園旭寿園にしても温泉にしても役場で使うものにしても出来る限り地元で買うようにという事でそれぞれの職員に社員に徹底させて頂いております。勿論価格に大幅な差があればこれは別ですけども、出来るだけ近い物については地元消費で行きましょうとそういう姿勢でやっていますので、そうした事行政としてやれる範囲の宣伝も良くやらせてPRさせて頂きたいと思いますが、お話のように渡邊議員さんのおっしゃる様にバケツというのはきっと小西商店だとか売っているんだと思うんですよ、だけど、町民の皆さんは何処の店で何が売っているのか分かってないんだと思います。私もあまりよく分かりません。ですから例えば商工会で出すような会報、あるいはうちの町報を使って結構ですからね、その中でお店の扱っている商品がこんなものですよという紹介をする事も一つの方法かなと思います。そうするとあの店でこうゆう物が売っているのだと、そのことを理解することによって大分変わるのかなと思いますので、いろいろ商工会と大沼議員さんとか高田議員さんもいらっしゃいますので、よく相談をさせて頂いて商工業の振興を図る努力をさせて頂きたいと思います。農業については先ほどから申し上げております。国策の中で中々厳しいという状況ですけども何とか生きる道をJAとよく話し合いをさせて頂きながらですね何らなの活路を見出す、一つ一つ出来ることからやっぱり頑張っていきたいなとそんなふうに思っております。商工業の後継者だとか色んなありましたけど、小さな町の割には商工業の皆さん方の支援ですけど、町内の奨学資金なんかも商工業農業につく方に付いては、償還免除しますというこれは全道的にも珍しい資金条例になっています。それほどこうゆうふうな優遇措置をやりながらやってはいますけども、商業の場合はやっぱりさっき言ったように中々難しい面がある。農業の場合はもうちょっと所得が上げれば後継者の確保が進むのかなと言うふうに思っていますので、その辺は今申し上げたようなところで努力をさせて頂きたいと思います。後、花嫁対策についてはこれは前々から大変な問題で以前知恵が出てこない。出来るだけ道外からの女性の研修生を受け入れて何組か成功させて頂いていますけれども、本年度は中々それがそういう対象者が来なかったという例もありますので、更に、実効性のない予算ばかり組むなというご指摘も受けましたので、来年に向けてどういう方策でそういう人たちを招聘することが出来るのか、十分に検討させて頂きたいと思いますが、実態としては今貰った資料では51名の未婚者がいるそうですから、これらを解決しないと中々沼田の農業というのは非常に厳しくなるのかなと、そんなふうに思っていますので、議員の皆さん方も何か知恵がありましたら、是非お聞かせいただいで、共に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。

○議長（杉本邦雄議長）はい、渡邊議員

○10番（渡邊敏昭議員）はい、あの先ほどの話の中に先に町長に言われてしまいま

したけども、ふるさと市場ですね、本当に今年はやった状況をちょっと僕も見せてもらいたけども、大変盛況だったという事であるような催し物かイベントになるのか、事業ですが、中々難しい所もあるかなと思うのですが、是非とも農商工挙げてのそういう取組みにもどんどん広げれるようお願いしたいと思いますし、又先ほども後継者育成の問題につきましても、聞いてみるとUターン等で戻ってきた後の対策ですか、いざ経営は継いではみたんだけどその後が中々持続する事が大変なんだ、要するに経費が色んな事でかかるという事でそれらについての支援ですか、そういうものも是非お願いしたいと思いますので、お願いという事で聞いて頂きたいと思います。

○議長（杉本邦雄議長）以上で町長に対する一般質問を終わります。次に教育長に対して一般質問を行います。通告順に順次発言を許します。3番高田議員、体育振興について質問して下さい。

○3番（高田 勲議員）体育振興につきまして教育長に質問致したいと思います。住民の体力の上を目的としてスポーツを普及させること又住民相互の交流の場として体育施設等の充実を図ることは町民が健康な体で心豊かにこの町で暮らす上で欠かせないことであると認識しております。しかしながら残念なことに町長教育長の行政報告にもありましたとおり、ここ1年間町内の夏型体育施設の利用者は減少傾向にあり、ともすれば、町民のスポーツ離れが加速しているかのようにも伺えます。子どもたちは、スポーツ少年団あるいは中学校の部活等体育メニューが揃っているわけですが最近メタボリックと言って我々中年には非常に耳の痛い言葉をよくしますが、非常にこう、あるいは働き盛りでなかなか運動をする時間が取れない人たちにどうやって運動をさせていくのか、この辺も教育行政、体育行政としての手腕じゃないかという風に思います。景気自体が低迷して体力的にも精神的にも非常に生活に余裕がなくなっていることも原因のひとつかと思いますが、このような時代だからこそ積極的な体育行政の展開が必要なのではないかとゆうふうに思います。質問に入ります。まず1点でございますが、高齢化社会に加えて非常に個性豊かな時代であります。スポーツに対する町民のニーズこれは競技種目もさることながらその目指すレベル、目的の人それぞれで多岐にわたっております。一方で国が平成12年に定めたスポーツ振興基本計画では平成22年までに市町村単位で最低一つの総合型地域スポーツクラブと呼ばれるものを育成する方針を掲げております。総合型地域スポーツクラブというのはもともとは民間指導で展開されるものでありますが、小さい町においては特にその導入過程においては教育委員会等が非常に大きく関与しているというふうに認識しています。総合型地域スポーツクラブの当町における展望も踏まえて今後どのようにこのような多様化したスポーツに対する町民ニーズに対応していくのか、お伺いしたいと思います。2点目です。1点目と関わりがありますが、本年度スポーツ指導者養成事業を実施しております。これは町からも支援して頂いていますが勿論個々人も多少

自分の財布から資金を出して町内では数名の方が受講されているとゆうふうに聞いています。これらの方々は資格取得後地域人材バンク等に登録することになって様ですがこの仕組みを今後スポーツの振興にどのように活用していくのかお伺いしたい。これが二つ目であります。3点目ですが、現有する体育施設でございますが、老朽化と言ったら非常に失礼なんですけど結構年数が進んでまあ遠くない将来整備あるいは手当が必要と思われるものがあります。町民体育館、高穂スキー場、野球場、テニスコートこれらはすべて建設してから35年から25年経過しております。これらの設備を今後どのように行っていくのか、整備計画等があるのかをお伺いしたい、以上3点質問したいと思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、教育長。

○教育長（松田 剛教育長）あの正直言って高田議員さんからこの質問されることに対しまして私ども教育委員会だけではスポーツ振興が出来ないということで、まあ私ども教育委員会中には体育指導委員がおりますけど、実際にはその関係でいくとなかなかこうスポーツ社会体育の企画立案ということで、実際にそれぞれのスポーツ振興を進めていく中では私ども教育委員会だけでは出来ませんので、体育協会と連携をして行かなければならないという考えで今進めておりますし、又たまたま高田議員さんが体育協会の会長ですし、津川副議長が副会長で、それから他にも体協の役員をやっている議員さんが沢山おられますけど、私は行政報告にも書いたんですけど、極端にスポーツ人口はすごく減ったとは思ってないですけど、減っています。たしか今高田議員さん言われましたように、町民体育館が昭和47年に出来たそれは各議員さんもお存じかなと思いますけど、まあたまたまその時に私も体育館に勤務させていただきましたので、そのころは体育館が1週間まあ6日間、月曜日は休館日ですけど火曜日から日曜日開けていましたら、まあとにかく人、人で中々こう夜仕事が終わった後に家族ずれで卓球をしたい、バドミントンをしたいと言う事でも、当然出来ないような状態だったという記憶があります。そのころの人口も確かに今より倍近くおりました。ただあの、最近こう考える中で私も教育長になってからスポーツ振興まあ色々なニーズに応えるためということで、まあ平成17年からこれで2回目今年もですね、一応お正月開けにですね体育関係、社会体育関係、スポーツ関係者ともまた懇談して是非これらの関係の打開策だとか、方向を方策をですね検討して行きたいなという感じを持っています。で、とくにあのこの関係でラジオ体操は今もう過去30年近く沼田町はラジオ体操はやって今現在6月1日から10月の体育の日までラジオ体操は役場の前でやっている。その中で大体私も理事者である町長も皆勤賞ということで私も大体出ているのですが、最近大体60名から100名くらい夏休みになると増えるんでやっぱり100名位の感じで、それと最近あの年のせいかもしれないけど早く目が覚めるので、若干30分ないし1時間くらいウォーキングをする訳ですけど、この人の数がすごい数にいる感じがしています。集計していませんけど、私の記憶では、感じ

では50人くらいは少なくとも町の近くを歩いている人がいる感じがしています。色々な関係で確かに行政報告でスポーツ離れとか施設の夏型の施設減少していますけど、たまたま私どもグリーンスコールというゴルフ場があるんですが、私も若干ゴルフをするのですがゴルフ人口が毎年グリーンスコールで1割から2割減っているそうです。ですから経営が大変厳しい話を聞いていますが、正直言って私どもの役場の中のサークル以前は40人50人の会員がいたけど、今は会員という名前の人はある程度人数はいるのですが、そのレクリエーションである毎月1回位の愛好会のコンペをやっても人が集まらないで平成19年度も6回計画したうち4日しかやらなかった。2回は中止になった、人が集まらない。これ何が原因かと感じかすると、先ほど高田議員さんも言われましたように経済状況かとの感じもするし、なかなか正直言ってサラリーマンも商業の人も農業の人も中々経済状況は厳しいので中々スポーツをする余裕がないのかなあという感じがしています。ただ健康のためにスポーツ社会体育は振興が必要だと感じてますし、先ほど先般深川西校の校長先生とちょっと知り合いで会うことがありまして、話したら深川西校に今生徒が470名いるそうです。で年々部活をやる生徒が少なくなってきたそうです。でまあ、校長先生いわく教育長今深川西校で一番部活で多いのは何か知っていますかという話で聞かれたんで、いや昔から西高はバスケットが強かったのでバスケットが一番多いじゃないんですかと話を聞きましたら、ちょっと余談ですけど、一番多い部がですね、帰宅部が一番多いそうです。これは年々多いそうです。ということは運動しないで家に帰るブラブラして帰る。帰宅部が一番多いということだったので、そこら辺で言いますと是非正月開けにですねまた高田議員さんも交えて色々社会体育スポーツ関係の懇談会をやってぜひそこら辺の考えをもって行きたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。それから、2番目のそこら辺でスポーツ指導者の養成事業と言うことで理事者とか議会の理解を得まして平成19年度は6名の方に受講をして頂きました。バレーボール、テニス、バドミントン、バスケットと言うことで、既にバレーボールの関係は平成19年度2名行って頂きましたけど、この方は既にバレーボールスポーツ少年団で指導者として活動して頂いていますので、それからテニスですとかバドミントン、バスケットの関係はこれからまた子どものミニバスケットだとか色々な事で活動して頂こうと、人材バンクに登録していますので、是非これから活動していただくという考えをしております。それから3点目の、正直言って体育施設、高穂スキー場、行政報告に書きましたように高穂スキー場は高田議員さんも平成15年2月11日に町営高穂スキー場施設検討結果報告書というのが、私も見せていただいたんですけど、正直言って、行政報告にも書きましたけど、深川スキー場が無くなるので、正直言って今年夏、教育委員会私どもと、次長、担当主査とで、北空知教育委員会を回りました。で、北空知学校も回りました。ただ、最終的に言える事は、北竜町は碧水に山がある、それから幌加内は幌加内には山があるということで、主に回ったのは

深川、妹背牛、秩父別と、実際に今の高穂スキー場を使って頂いているのは、秩父別の若干生徒とですね、妹背牛と多度志で、深川は意向調査をしましたら、山が小さい、ゲレンデが狭い、それからロッジも狭い、それからリフトの稼働率が悪いという理由で、正直言って、高穂スキー場を今後ともあまり使う感じがなさそう言う話で回答であった。ぜひ私どもは社会体育学校教育のために低料金で提供していますということで、各学校にもあれしました。最終的には今あすこはカムイリンクスに行く学校が多いそうですね。でも私どもは低学年用にはすごく素晴らしいスキー場だと啓蒙していますので、そこら辺の関係で高穂スキー場も今シーズン見て、それから又色々なことで検討して行きたいと考えていますし、それから町民体育館は昭和47年に出来ましたので、耐震装置になっていませんので、そこら辺の関係は先般も政策予算関係で理事者と懇談する機会がありまして、将来的に今の小学校も中学校も耐震装置でないそれから、正直言って、沼田高校の募集停止もありましたし、なりましたし、いろんなことをかんがみながら、これからの沼田町の施設の関係を十分町長も検討して行きたいんで、教育委員会担当の施設も十分検討すれということで、指示を受けましたので十分検討して行きたい。で、テニスコートもですね、テニス連盟に委託してお願いしていますけど、大規模には改修は今のところ考えていません。小規模な改修は是非進めて行きたいと考えていますのでご理解頂ければと思います。以上であります。

○議長（杉本邦雄議長）はい、高田議員。

○3番（高田 勲議員）あの、1番目と2番目の件につきましては、又話すこともありますが、あくまでも住民のニーズとあとは健康のためにスポーツをする人がスポーツにお金をかけようかとそうゆうお金をかけて自分で運動しようかという意識が非常に大事だと思います。その辺の事も是非頭の中に入れて頂きまして、お仕事を進めて頂きたいと思います。あとは、施設の関係であります。私も施設を利用している者ですけど個々数年間ですね、私の場合はテニスをやるんで、テニスコートを使ってまして、もう少し整備されていたら、町外から一杯選手を呼んでもっと立派な大会が出来る、そうすると町内振興につながるのになあ、今の整備状態ではあまり人を呼んで申し訳ないですけど、立派な100人80人規模の大会をやれるような施設でないというふうに今思っています。現実に西田町長が教育長さんだった時だと思いますが、確か平成6年の開基100年の年だと思いますが、これも町の方から一杯補助金を頂きましてテニスの大会をやりましたら、実はあそこのコートに100人近いテニスプレーヤーが集まってテニスをやった事がありました。その辺も、是非各団体あるいは体育協会の方にですね、利用状況とか中々でてこないような不満の声もあるのかなと思いますので、その辺も良く事情徴収をして頂きたい、これはお願いでありますので答弁は結構であります。あとスキー場であります。今年の本町スキー場への影響について推移を見守り今後の対応を考えておりますということで教育行政報告にございます。ただ、私も自分の子どもが小さいときですね、子どもを連れてスキー場に行って乗っ

た事があるんですけど、今もそうですが、例えばトイレの状態ですとか、色々見えますと、本当にここの施設にですね、子どもを一人で置いていて大丈夫だろうかとか、怪我しないだろうかとか、親はそうやって思うものです。初めて例えば深川スキー場とかが閉鎖して初めて沼田のスキー場に来る親とかいると思う学校単位じゃなくて、当然発券のリフト券売り場の所で見えたら従業員の方は当然分かると思いますので、例えばそういう方たちに色々なアンケート調査を実施したりして、今後の指針にして本当に一冬かけてじっくり考えて判断して頂けたらどうかと思いますが、その辺教育長如何か最後にお伺いしたいと思います。

○議長（杉本邦雄議長）はい、教育長。

○教育長（松田 剛教育長）あの今ほど色々ご示唆を頂きましたので、スポーツの関係は是非懇談会でいいご意見を頂いて、私ども努力したいと考えていますので、そこら辺でご指導をお願いしたいなと思ってます。それからスキー場の関係は正直言って町づくり懇談会へ行った時です。あのトイレは小さい低学年子どもさん方はおっかなくてトイレ出来ないんだという話を言われました。で、正直言って今時言葉はどうかは分かりませんが、どぼん式のトイレは中々子どもも利用していなしので難しいと思いますので、ただ私どもこうあの高穂スキー場のロッジにあるトイレを改修するのにまあ建設課の技術担当の人とも相談しているんですけど、まあ家庭用とちょっと違うんで一千何百万くらいかかるだという話もあって、そこら辺は私ども十分そこら辺の町民の意見を聞いていますので是非今シーズンですね、色々な推移を見ながら是非又議会各議員さんのご理解を得ながらまた理事者と相談して、最低でも今言う学校教育ですとか社会教育面で行く最低限の事をしていきたいと感じますので、是非そこら辺また色々御指導頂ければと思っていますので宜しくお願いします。

○議長（杉本邦雄議長）次に7番橋場議員、子どもの非行の防止について質問して下さい。

○7番（橋場 守議員）通告書で字が間違っているのが二つありましたので、すいませんです。親と言う字をね漢字を分析すると木の上に立って見ると書くんだそうです。所が、今の状態科学が進歩して子どもが親が木の上に上がって見てもですね、ちょっと間違ったことがやっているかどうかというのは、そういうことは見えないような状況になっているんですね。まあそれは携帯電話だとかそういうことなんですけれども、例えばテレビで見てこうゆう物を買いたい時に自分の親には買ってもらえないと、親にも言えない物をインターネットで自分のとこで注文すると自分のうちに来ると親に見つかるという事でね、友達の所へ行って親のいない時にそういう品物を注文するんだそうです。それが、来てその注文した所へ届ける事がこうゆう事がやられているみたいである。これは、お前のところへ行くぞと言われた人が断ったり、こうゆうことあるんだと言うと子どもたちにはチクルという事でいじめの対象になるみたいである。ですからそれらの防止をやっぱり色々な手立てを打って、まあ言ってみれば色んなと

ころでお話をしてそうゆう事のない様にしかなのか知れないけど、そうゆう事の非行に向かっていくような行動をどうゆう風にして防止していくかを教育委員会では議論した事があるのですか。

○議長（杉本邦雄議長）教育長。

○教育長（松田 剛教育長）あの正直言って、私はインターネットで物を買った経験はないんですけど、たまたま橋場議員さんからご質問ありまして一応私どもの町、沼田小学校中学校の実態を調べてみました。正直言って、小学校では高学年でもインターネットで物品の購入はないそうです。ただ、中学生になるとインターネットで物品購入経験者は、1年生で4名、2年生で4名、3年生で7名いるそうです。で、この中でも今議員さんが心配しておられる、他人の家で頼んで購入したりという事は今のところは、中学校では無いそうです。つかんでないと言うより、これは、私正直言って学校に学校の方をお願いして調べた関係ではないと。正直言ってそこだけでは中々実態も掴めないと言うことで、私どものゆめっくるに小学生中学生高校生がたくさん遊びに来るですね、そう言う時にゆめっくるに居る我々教育委員会職員と言うのは常にゆめっくるのおじさんお姉さんお兄さんという感じで、子どもに接する機会があるので子どもたちよくざっくばらんに話してくれるのですが、そんな中でこの話も聞きました。どうだろうこうゆう事実際にあるのか無いのか話しを聞きましたら、正直言って、今のところうちの沼田の児童生徒素直な人が多いか知らんけど、こうゆう経験はないと、それから友達の情報でもこうゆう事はないという話を今のところ聞いていますので、ただこれいつあるか分かりませんので、学校と十分連携をとり、又尚且つ学校と地域と保護者が連携を取らなかつたら、なかなかこうゆう時代というのは未然には防げないという感じがしていますので、中学校のいっぺん通りですけど、技術家庭の時間に教えるところこうゆう事を話していますが、もっとももっとこう学校と連携を蜜にしてこれを未然に防止出来るようにして行きたい。それからたまたま携帯は生徒は持って登校できませんので、そこら辺の関係も十分に未然に防止できるような形を取って行きたいと思っていますので、又色々なご指導があればお聞かせいただければと思っています。

○議長（杉本邦雄議長）はい、橋場議員。

○7番（橋場 守議員）まああの、無いと言われたらそれしか仕方ないですけど、まあ実際あるんだけど、それは十分注意して、父兄との連携は本当に大事だと思うので、それらをきちんと緊密にして是非非行に繋がらない様に注意して欲しいなと思っています。答弁はいらないです。

○議長（杉本邦雄議長）はい、答弁はよろしいですね。

○議長（杉本邦雄議長）はい、以上で教育長に対する一般質問を終わります。これを以って一般質問を終了致します。ここで暫時休憩致します。10分休みます。55分まで休憩いたします。

(一般議案)

○議長（杉本邦雄議長）再会致します。日程第8、議案第61号。沼田町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。総務課長。

○総務課長（金子幸保課長）はい。議案第61号、町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を提出する。平成19年12月18日提出、沼田町長名でございます。町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例、第1条、町職員の給与に関する条例を次のように改正する。第7条第3項中、「6,000円」を「6,500円」に改める。これにつきましては、扶養家族の改正ということでございます。「職員が扶養親族でない配偶者を有する場合の一人目の子等は6,500円」を削る。これにつきましては、従来は「6,000円」と「6,500円」に分かれて条例が作成されてございました。今回、同金額になったということで、この部分を削除するものでございます。第14条第2項中、「勤務手当」を「勤勉手当」に。これにつきましては、字句の訂正ということでございますのでよろしくお願いいたします。それから同項第1号中、「100分の72.5」を「100分の77.5」に改める。次に別表を次のように改める、という風になってございます。4頁目をお開き願いたいと思います。第2条町職員の給与に関する条例の一部を次のように改正する。第14条第2項第1号中、「100分の77.5」を「100分の75」に改める、というものでございます。附則と致しまして、施行期日等ということで、1点目、この条例は交付の日から施行する。ただし、第2条の規定は平成20年4月1日から施行する。2、第1条の規定による改正後の町職員の給与に関する条例の規定は、平成19年4月1日から適用する。ただし、第14条第2項第1号の改正規定は、平成19年12月1日から適用する。3と致しまして給与の内払、改正後の条例の規定を適用する場合においては、この条例による改正前の条例の規定に基づいて支給された給与は、それぞれ改正後の条例の規定による給与の内払とみなす、ということでございまして、4番目と致しましては委任条項ということになってございます。お手元の次の頁に改正資料ということで載せてございます。一部合計が間違っていたので、議員の皆様におかれましては、改正資料を一枚もので配布してございますので、そちらをご覧くださいという風に考えます。それでは、提案理由の説明をさせていただきます。この関係につきましては、人事院が8月に国に対して勧告を致しました。その主な改正と致しましては、20歳代を中心とした若年層の基本給や子供の扶養手当などを引き上げることが主な改正点でございます。これに対しまして、国は11月26日に国家公務員一般職改正給与法を可決したことに伴い、本町も国家公務員に準じて引き上げるものでござい

すので、よろしくお願い致します。次に主な改正点の説明でございます。まず給料表ということで、改正後の欄を見ていただきたいと思いますけれども、1級から3級の若年層に限定して改定するものでございます。引き上げ額は、200円から2,000円の幅という風になってございます。これにつきましては、平成19年の4月1日に遡るということになってございますので、この関係については差額が支給されるという風になってございます。それで、給与表をご覧いただきたいと思いますけれども、1級につきましては、1号俸から68号俸の該当する若年層に給与改定になります。それから2級の表でございますけれども1号俸から36号俸、それから3級は1号俸から16号俸、この号俸に該当する若年層の方におかれましては、200円から2,000円の値上げという風になります。次にこれに伴いまして、初任給でございますけれども、大学卒が172,200円になりまして2,000円のアップ、短大卒が1,800円、高校卒が1,700円のアップということになりますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。次に期末勤勉手当の関係でございますけれども、相対的に改正前におかれましては、4.45の支給となっておりました。それが改正後ですね、4.5という風になりまして、勤勉手当の部分0.05ヵ月分引き上げになるということでございます。19年度におきましては、もう既に6月分が支給されてございますので、12月に合わせてですね、0.05ヵ月分を引き上げるというものでありまして、20年度からは0.05を半分ずつしまして、6月に0.25、12月に0.25という様なかたちになる改正でございます。この関係につきましても、12月分の手当てに0.05ヵ月分引き上げることになりますので、差額を支給するということになります。それから、扶養手当の関係でございますけれども、子にかかる額ということで、6,000円となっておりましたけれども、500円アップ致しまして6,500円という改正になってございます。これにつきましても、19年の4月1日から遡るということになりますので、500円を差額支給して行きたいというものでございます。ちなみに、人件費の追加額と致しましては、一般会計で209万4千円、それから特別会計で249万8千円、合わせまして459万2千円程の増額という風になります。ちなみに、北空知各町とも同じような改正を今回の12月議会に提案してございますので、本町の場合もよろしくご審議のほどお願い致します。以上です。

○議長（杉本邦雄議長）説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第61号は原案のとおり決することにご異議ありま

せんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第9、議案第62号。空知教育センター組合規約の変更についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。教育委員会次長。

○教育委員会次長（栗中一弘次長）はい。議案第62号、空知教育センター組合規約の変更について。地方自治法第286条第1項の規定により、空知教育センター組合規約を次のとおり変更する。平成19年12月18日提出、沼田町長名でございます。空知教育センター組合規約の一部を改正する規約。空知教育センター組合規約の一部を次のように改正する。

(以下、議案を朗読)

○教育委員会次長（栗中一弘次長）美唄市が単独設置をしてございました、教育研究所を19年度末をもって廃止をされまして、平成20年度より空知教育センター組合への加入に関する規約の変更でございます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○議長（杉本邦雄議長）説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第62号は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第10、議案第63号。平成19年度沼田町一般会計補正予算についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。財政課長。

○財政課長（辻山典哉課長）議案第63号、平成19年度沼田町一般会計補正予算について。平成19年度沼田町一般会計補正予算を別冊のとおり提出する。平成19年12月18日提出、町長名でございます。別冊補正予算の第6号、1頁の方をお開きを願いたいと思います。

(1 頁目 第 1 条第 1 項朗読 (2 項以下省略))

○財政課長 (辻山典哉課長) 10 頁歳出の方をお開きを願いたいと思います。まず歳出であります。2 款の総務費 3 目の OA 管理費でございます。176 万 2 千円を今回補正増致したものでございますが、北海道自治体情報システム協議会の負担金として、増加補正を致してございます。これにつきましては、住民基本台帳ネットワークシステム、これが平成 20 年 5 月まで機器の更新がなされないと保守が出来ないと、こういった事態になることから、地方自治情報センターというところから通告を受けている訳でございます。これを受けまして共同購入をすることと致しまして、自治体情報システム協議会への負担金を増額を致したものでございます。次、6 目の財産管理費であります。64 万 8 千円を減額を致してございます。当初北 1 条 6 丁目、元商工会の大沼局長が住んでいた、いわゆる町の職員住宅であります。これを老朽のため解体をする予定でございましたけれども、本年度見送りまして次年度の工事へ振り向けたものでございます。次に 12 目の自治振興費で 21 万円の追加を致してございます。8 節報償費、11 節の需用費ともに名誉町民にかかる 2 名分の経費として計上致したものでございます。続きまして、16 目の町営バス費であります。42 万 9 千 2 百円を追加を致しました。13 節はバス運行の委託料としての執行残でございます。19 節で 441 万 8 千円を今回追加を致したものであります。滝川、沼田間におけますバス運行赤字補てん額の確定によります負担金として計上したものでございます。次に 21 目の新エネルギー推進費であります。20 万 1 千円を補正増致してございます。普通旅費の増であります。環境省主催の一村一品応援プロジェクト、行政報告にもございましたとおり、北海道の最優秀事例として選定をされたことに伴いまして、東京におけます全国大会への参加費用、この旅費を計上致したものであります。なお、これの財源につきましては、20 万 1 千円その他財源として計上しておりますけれども、環境省の方から助成がなされるものでございます。次の頁 11 頁をお開き願いたいと思います。4 項の選挙費の 4 目町長、町議会議員選挙費であります。52 万 9 千円の減額であります。総経費の整理を行いまして、執行残によります減額ということで今回補正の整理をしたものでございます。12 頁をお開きを願いたいと思います。3 款の民生費であります。3 目介護支援費であります。3 万 5 千円の繰出金の補正を致してございます。これにつきましては、給与改定等の影響分繰り出しの増ということでございます。4 目の障害者福祉費であります。158 万 2 千円の追加を致してございます。23 節の償還金利子割引料で 153 万 6 千円、これにつきましては、自立支援給付費の過年度分の国庫金の返還金でございます。次に 2 項の児童福祉費 2 目子育て支援費であります。1,048 万 9 千円の追加補正を致したものでございます。13 節の委託料で 1,046 万 4 千円、保育園の運営委託料として補正を致してございます。沼田保育園に対する運営の委託料でございます。当初 55 名分計上致してございましたけれども、現行 59 名で推移を致してございます。更

に措置している園児の年齢も低年齢化をしていること、更には広域の入所分が生ずるなど委託料の補正増が必要になったものでございます。なお、財源につきましては運営費の国庫負担分482万、更に児童の負担金、費用徴収金262万7千円、こういったものを特定財源として計上致しているものでございます。続きまして、13頁をお開き願いたいと思いますが、4款の衛生費、2目の塵芥処理費であります。125万1千円を今回追加を致したものでございます。北空知衛生センター組合負担金の増であります。センター組合のバイオガス化施設、これの生ごみ破砕機がある訳ですが、この破砕機の刃が欠落をする事態がございまして、これの修繕にかかります沼田町の負担として125万1千円計上致したものでございます。なお、組合サイドのこれが修繕の全体事業費は約1,500万という風に聞いてございます。続きまして、6款の農林水産業費の6目農業総合対策費であります。747万2千円を減額するものでございます。これにつきましては、米穀低温貯留乾燥施設スノークールライスファクトリーの大改修の3事業、屋根の塗装或いは蛋白値の測定器それからシーケンサ整備、この3事業にかかります執行残として減額を致したものでございまして、財源も合わせてその他で農業振興基金この財源も減額を致したものでございます。続きまして14頁であります。16目就農支援実習農場整備費でありますけれども、補正額は生じてございませぬ。国庫補助対象事業経費の目内の組み替えを行ったものでございます。続きまして17目の就農支援実習農場運営費であります。これにつきましても補正額は出てございませぬで、目内予算の組み替えでございましてけれども、まず8節の報償費で47万3千円の減額をしております。実習農場手当の減ということで、47万3千円している訳であります。実習生の当初予定よりの減によりまして、当年目内総予算のなかで減額を致したものでございます。13節の委託料であります。43万5千円を追加を致しました。これにつきましては、有機作物栽培委託料の増、有機作物となっております。これは椎茸の栽培委託料ということで29万3千円の追加でございます。椎茸栽培につきましては、実習生が現状のところ確保出来ていないということから、委託料を増額をして業務を委託したものでございます。続きまして除雪委託料の増と致しまして21万今回計上致したものでございます。これにつきましては農場の椎茸栽培棟3棟ある訳ですが、その棟の間の雪の処理、これにつきまして委託を行おうとするものでございます。続きまして7款の商工費2目の観光費であります。40万円の減額を致したものでございます。19節の負担金補助で減額を致しております。夜高あんどん祭りの駅前のお祭り広場を開設をした訳でありますけれども、ここに対する助成金を40万、当初計上致してございました。日本の祭りスペシャル番組を行いましたスポンサーでありますダイードリンコ、ここが経費を負担したことによりまして、40万の全額ここで皆減をするものでございます。続きまして15頁をお開き願いたいと思いますが、土木費の2項道路橋梁費1目道路橋梁維持費であります。134万2千円を追加を致してございます。11節

の需用費で135万3千円燃料費の増を致してございますが、これにつきましては、燃料単価の高騰によりまして除雪車両、施設関係は補正を行っておりませんが、一番交通の確保という視点から見ますと、この単価差分を増額をして補正が必要ということで、今回135万3千円を追加を致したものでございます。続きまして、4項都市計画費の2目の公園費であります。これにつきましては11節から19節までそれぞれの事業におけます執行残の整理でございます。続きまして9款の消防費であります。1目消防施設費で944万8千円を減額を致してございます。深川地区消防組合への負担金の減額であります。消防組合におけます前年度の繰越金これの整理分が690万2千円、それから退職組合負担金の還付金が319万6千円、これがあつたことから合わせまして、944万8千円を一般会計の負担金を減額をするものでございます。続きまして16頁をお開きを願いたいと思ひますが、10款の教育費であります。3目のスクールバス費であります。需用費の補正で45万増加を致してございます。これにつきましても燃料費につきましては、燃料高騰によりまして単価差分を今回補正計上を致したものでございます。続きまして6項保健体育費の4目スキー場管理費であります。32万6千円の補正増でございます。11節の修繕料20万につきましては圧雪車の始業点検によりまして修繕、これがかつたということの追加補正でございます。13節の委託料につきましてはリフトの保守点検、これは当初見ておりませんで、これが必要なことから今回補正として計上を致したものでございます。12款の諸支出金4目の振興基金費であります。500万円を追加を致したものであります。これは振興基金の指定寄付金としての積み立てを予算化したものであります。北竜の高松さんからのご寄付がありまして、これを基金に積み立てる予算を計上したものでございます。続きまして17頁をお開きを願いたいと思ひます。13款の職員費であります。1目職員費で20万5千円の減額でございます。2目の給料で244万6千円の減であります。これは一般職員の給与分の減であります。今回の給与条例の一部改正による影響が43万9千円でございます。しかし会計間異動が年度中ございまして、それらが288万5千円の減と、これら合わせまして244万6千円の予算上の減になるところでございます。次に3節の職員手当であります。給与条例の一部改正に伴います勤勉手当等の増に合わせて、年度を通しての各手当の増減整理、これを今回合わせて行ったものでございます。続きまして共済費であります。218万1千円の増加でございます。共済費につきましても、給与条例の改正に伴います跳ね返り分と合わせまして、年度を通してのそれぞれの負担金これらの増減整理を行ったものでございます。以上が歳出であります。続きまして7頁の方、歳入の方をお開き願いたいと思ひます。

歳入でございますが、まず地方交付税につきましては、最後にご説明をさせていただきたいと思ひまして、13款の分担金及び負担金のうち1目民生費負担金262万7千円、これにつきましては保育所の児童負担金の増ということで、園児数の増によ

ります費用徴収金、保育所児童の負担金として増加計上致したものでございます。14款の使用料及び手数料の5目土木使用料で119万7千円の減額であります。パークゴルフ場の使用料が119万7千円の減額であります。当初500万円を見込んでおりましたけれども、利用者の減によりまして380万3千円の使用料収入実績でクローズを致してございます。続きまして15款の国庫支出金であります。民生費の国庫負担金321万3千円、これにつきましては保育園の運営費の補助金、負担金の国庫分ではありますが、園児数増による国庫負担金の増でございます。続きまして8頁をお開き願いたいと思います。16款の道支出金1目民生費の道負担金であります。160万7千円、これにつきましても保育所の運営費の道費の負担分の増ということで園児数増にかかるものでございます。18款の寄付金2目の総務費寄付金の500万、振興基金の指定寄付金というかたちで高松さんからの寄付金を予算計上したものでございます。続きまして9頁ではありますが、19款繰入金であります。1目の財政調整基金で補正額を1億5千万円の減額処理を致してございます。この繰入金の減額につきましては、12月の補正まで実行予算を含めて運営をしてきた訳でありますけれども、今後の財政運営の見通しが立つということによりまして、全額1億5千万円の減額をするものでございます。続いて7目の農業振興基金の繰入金747万2千円につきましては、ライスファクトリーの改修事業の執行残分これを減額をするものでございます。それでは7頁の方をもう一度戻っていただきまして、地方交付税であります。地方交付税では、1億5,105万4千円を今回増額補正を行ってございます。まず1点目につきましては、財政調整基金の繰入金これが財政運営が可能ということから、取り止めをしたということからその振り替え財源として、交付税に1億5千万円をまず計上致したものでございます。更に特定財源を充当してもなお不足する分105万4千円、これを合わせて計上致しまして収支の均衡を図ったものでございます。歳入歳出第6号の補正予算は以上でございます。よろしくお願い致します。

○議長（杉本邦雄議長）説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

○6番（上野敏夫議員）はい。

○議長（杉本邦雄議長）はい、上野議員。

○6番（上野敏夫議員）6番上野です。14頁の就農支援センターの関係で説明されたんですけど、予算が組み替えということでなんか、国からも出ているような風を感じを取れたんですけど、どのように椎茸を収穫するのに、まあ少年が1名であったということだと思えるんですけどね、おそらく3月までだと思えるんですけどね、これをこのようにまあ子供が増えればいいんですけど、1年間やるとどのくらいの金額になるのかというのと、あと除雪についてですけど、当初から建物が設計されたなかで、建物の中の雪のことは当然沼田に住んでいる方は分かっておられたと思うので、なんでこのような増額の予算が出てくるのかというのと、今除雪されている体制と除雪費の

予算がいくらあって追加21万円になったのか、その辺もちょっとお聞かせ下さい。

○議長（杉本邦雄議長）はい、農業振興課長。

○農業振興課長（生沼篤司課長）除雪の関係でございますが、当初から自前と言いますか、現在牧場で持っている装備のなかで、解決したいということで考えていたところでございますけれども、実際やり始めてですね、雪の降り方も色々予期せぬ様な降り方も想定されるということもございまして、それで、とりあえずどうしようも無くなった時に年間委託では無くて、どうしようも無くなった時にお願いをするということの形で、今回補正をさせていただきたいと思ってあげたところでございます。それから、あと。

○6番（上野敏夫議員）椎茸の方が1名しか今のところ居なかったんで、その分子供が、まあ12名の予定だったのがそういう不足したんで、このような予算が必要になってきたということですよ。まあそれで、そのお金がどのように出てきているか、財政課長なのかなあと思うんですけどね。どのようにっていくのか、その辺のお金の動きを教えてください。

○議長（杉本邦雄議長）はい、財政課長。

○財政課長（辻山典哉課長）私に振られましたので、直接担当しておりませんで、予算上の査定をしたときの話ということにしかお答え出来ないと思っておりますが、当初はこの椎茸栽培の委託に関しては予算を持っておりませんでした。これは順当に行けば、当然当初の目的どおり実習生という形のなかでは必要の無かったものという風に考えております。ただ、現状のなかで椎茸は既に菌床が入っておりまして、毎日収穫或いは出荷をしなければならぬというなかで、これを放っておく訳に行かないという状況のなかでは、これの作業を行うためにシルバーに委託をということで私は聞いておりますが、その関係でやむを得ず29万3千円の補正が必要になったという状況のものでございます。

○議長（杉本邦雄議長）よろしいですか。はい、上野議員。

○6番（上野敏夫議員）はい。時間も無いので申し訳ないですが、その本当にこのような予算がされないように計画しているのに、この負担を国にお願いしたいと私も質問してありますので、是非これからも国の方に負担してもらえるようお願いして欲しいのと、除雪についてちょっと理解がしずらく、私が質問したのは現在どのようにされていて、予算が除雪費いくらだったのかということをお聞きしたと思うんですけど、その辺だけお聞かせ下さい。

○議長（杉本邦雄議長）はい、農業振興課長。

○農業振興課長（生沼篤司課長）除雪にかかる経費はですね、そもそも牧場の持っている装備にかかる、まあ先程言いましたように自前でやろうという考え方で当初おりましたものですから、それにかかる燃料代を確か40万程度だったかと思っておりますが、それを持っているだけでございました。それで、その後9月でしたか、あの施設のな

かの通路、管理等と椎茸ハウスとの間の通路ですね、ここを除雪するという事で、10万5千円でしたか、補正をいただきまして、その通路についてはそんな形で今除雪をしておりますが、そこで当初見ていなかった屋根雪が落ちたものの始末代ということで、今回新たに上げたものでございます。

○議長（杉本邦雄議長）よろしいですか。はい、他にありませんか。橋場議員。

○7番（橋場 守議員）10頁2款自治振興費なんですけど、名誉町民章、まあ勲章ですよ。勲章20万円で購入することになるんだと思うんだけど、これは何の為なのか、ちょっと教えて欲しい。それから、あ、誰に渡すのかですね、それをちょっと教えて欲しいのと、それから15頁の公園管理費なんですけれども、125万6千円減額したというのは、入札か何かして安くなったのかどうかということね。それから海洋センターの燃料費と光熱水費が減になっているんですけども、燃料費にすると今年暖かかったから水を暖める必要が無かったのか、どういう訳で減額になったのか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、総務課長。

○総務課長（金子幸保課長）今、橋場議員さんからのお尋ねの件でございますけども、名誉町民章はどういうものか、ということですね。

○7番（橋場 守議員）いやいや、違う。なんで必要になってくるのか。ここで予算が上がってきたのかということ。

○総務課長（金子幸保課長）これにつきましては、新年度におきまして、そういう提案がされるということを知ってございまして、今現在総務課の方にはですね、その都度発注するという関係になってございまして、期間が必要だということございまして、それに間に合わせるために今回補正を上げさせていただいたということでございます。

○議長（杉本邦雄議長）はい、次、次長。

○教育委員会次長（栗中一弘次長）海洋センター費でございますけれども、燃料費、光熱水費の減額でございます。これにつきましては、本年5月から非常に天候が良くて今までに無いほど室内が暖める、或いは水温を上げるという燃料費が近年希に見ないぐらいかから無かったということの不用額の減額でございます。よろしく願い致します。

○議長（杉本邦雄議長）はい、建設課長。

○建設課長（谷口 勲課長）公園費の委託料でございますが、執行残でございます。

○7番（橋場 守議員）いやいや、残だけでも入札してこうなったのか。

○建設課長（谷口 勲課長）入札ということでございます。

○7番（橋場 守議員）はい。

○議長（杉本邦雄議長）はい、橋場議員。

○7番（橋場 守議員）10頁のちょっと分からないんですけども、名誉町民章というのは決まってから買うべきものじゃないのかい、用意すべきものじゃないのかと思

うんだけれども、ちょっと分かりませんね。

○議長（杉本邦雄議長）はい、総務課長。

○総務課長（金子幸保課長）本来はですね、そういうことでございます。ただ従来からですね、予め購入させていただいております。というのはですね、名誉町民の方が決定されたときにですね、その儀場で渡すことに今まで従来やってきているんですよ。そういうことであれば、新年迎えましてですね、そういう事態が起きた時にすぐ対応出来るようにということで、今回補正で組まさせていただいた、ということでございます。いいですか。

○7番（橋場 守議員）まあ、納得しないですけど

○議長（杉本邦雄議長）はい、よろしいですか。

○総務課長（金子幸保課長）あの、内地にですね、発注するらしいんですよ。それで、期日がかかるということで、すぐその辺にあるあれで無いという特注なんです。

○7番（橋場 守議員）いや、分かった。はい、いいですか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、橋場議員。

○7番（橋場 守議員）やっぱりね、これは順序としてさ、決まったからその場所ですね、授与するといったらね、その人呼んでるって言うことだったらね、決まるか決まらんかという時から来てもらうというのは、これはちょっとおかしい話でさ。やっぱり議会で決まったらその人にいついつ授与しますということでやらないとね、それは始めから決まるかどうか分からないのにね、提案しますというのはちょっとやっぱりおかしいと思うのね、まあこれからいつか2人分くらいは名誉町民が出るだろうと、その為を買うんだということであれば、まあ仕方が無いけど。

○総務課長（金子幸保課長）そういう風に理解して下さい。

○議長（杉本邦雄議長）はい、他にありませんか。無ければ質疑を終結してよろしいですか。質疑無しと認め、質疑を終結します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第63号は原案のとおり決することに異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第11、議案第64号。平成19年度沼田町養護老人ホーム特別会計補正予算についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。和風園園長。

○和風園園長（浅野信行園長）議案第64号、平成19年度沼田町養護老人ホーム特別会計補正予算について。平成19年度沼田町養護老人ホーム特別会計補正予算を別冊のとおり提出する。平成19年12月18日提出、沼田町長名でございます。別冊補正予算の第2号、1頁をお開き下さい。

（1頁目 第1条第1項朗読（2項以下省略））

○和風園園長（浅野信行園長）今回の補正の主な内容についてご説明をさせていただきます。収入におきましては、施設退所された利用者の家族からいただきました、施設寄付金の計上と、平成18年度実施した選挙事務交付金の収入等を計上したものでございます。また、支出の部におきましては、先程一般会計でもご説明がありましたが、給与改定に伴います若年層職員の給与、勤勉、扶養手当、共済費の増額と旅費の増額によるものでございます。それでは詳しい内容についてご説明したいと思います。

（「説明省略」の声あり）

○和風園園長（浅野信行園長）よろしくご審議のほどお願い致します。

○議長（杉本邦雄議長）はい、説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第64号は原案のとおり決することに異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第12、議案第65号。平成19年度沼田町特別養護老人ホーム特別会計補正予算についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。和風園園長。

○旭寿園園長（橋 英則園長）議案第65号、平成19年度沼田町特別養護老人ホーム特別会計補正予算について。平成19年度沼田町特別養護老人ホーム特別会計補正予算を別冊のとおり提出する。平成19年12月18日提出、沼田町長名でございます。別冊の第2号補正予算の第1頁をお開き願います。

（1頁目 第1条第1項朗読（2項以下省略））

○旭寿園園長（橋 英則園長）歳出の方から説明させていただきます。6頁をお開き願います。第1項1目の運営費でございますが、補正前の額3億1,523万8千円に

補正額40万円を減額し、総額3億1,483万8千円でございます。2節の給与から3節の職員手当、4節の共済費については職員の異動等に伴うものでございます。内容につきましては7頁以降、給与改定に伴う分、それからその他の増減分、それから制度改正に伴う増減分となっております。次に7節の賃金につきましては、臨時職員の欠員等による減額でございます。11節の需用費につきましては、燃料費の高騰及び消耗品費の削減によるものでございます。12の役務費でございますが、これはクリーニング代手数料が増額したものでございます。13節の委託料でございますが、職員腰痛検査の1名分の増とそれから消防設備保守点検の増が3万9千円となっております。25節の積立金であります。基金の積立金で100万円を減額しております。次に歳入の説明でございますが、1目の老人福祉施設介護報酬収入でございますが、これにつきましては利用者の減による介護収入の減でございます。

(「異議なし(説明省略)」の声あり)

○旭寿園園長(橋 英則園長) 以上でございますので、よろしくお願い致します。

○議長(杉本邦雄議長) はい、説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(杉本邦雄議長) ご異議なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(杉本邦雄議長) ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第65号は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(杉本邦雄議長) ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

○議長(杉本邦雄議長) 日程第13、議案第66号。平成19年度沼田町国民健康保険特別会計補正予算についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。住民生活課長。

○住民生活課長(辻 広治課長) はい。議案第66号、平成19年度沼田町国民健康保険特別会計補正予算について。平成19年度沼田町国民健康保険特別会計補正予算を別冊のとおり提出する。平成19年12月18日提出、沼田町長名でございます。別冊補正予算第3号の1頁をお開きいただきたいと思います。

(1頁目 第1条第1項朗読(2項以下省略))

○住民生活課長(辻 広治課長) 歳出の方から説明させていただきます。7頁をお開きいただきたいと思います。歳出の2款保険給付費、1項の療養諸費の1目一般被保

険者療養給付費の関係でございますが、3,045万7千円の補正増をするものであります。この関係につきましては、入院にかかる療養給付費が昨年の同期に比べ約50%の増加となっていることから、現状のままでは不足を生じることが見込まれるため補正増とするものでございます。次、5項の葬祭諸費の1目葬祭費の関係ですが、18万円の増となっております。この関係につきましては、あまり好ましいことではないんですけれども、昨年の同期に比べまして国保の該当者の死亡者がですね、現状7名程増えております。これも現状のまま推移するとしたら、年度末には不足を生じる見込みであることから、この額を補正させていただくものであります。次、8款の諸支出金の関係ですが、3目の償還金で891万円の補正増となっております。この関係につきましては、平成18年度の療養給付費国庫負担金が清算により超過交付となっていたことから、過分が生じております。これの支払いの為に補正増とさせていただくものでございます。次に歳入の方へ移らさせていただきます。歳入の2款1項1目の療養給付費等負担金でございますが、1,035万5千円の補正増となっております。この関係につきましては、歳出で申し上げました一般療養給付費の額が増加したことによりまして、これに対する国庫の負担分約34%でございますが、これの収入を見たものでございます。2項の国庫負担金の1目財政調整交付金が274万1千円の補正増となっております。この関係につきましても、普通調整交付金として一般療養給付費の9%がこの財源となることから、補正を増とさせていただいております。次、3款の療養給付費交付金の1目療養給付費交付金の関係ですが10万4千円、この部分につきましては、退職者医療給付費の交付金が全額100%交付となることから、この分を補正増としております。次、4款の道支出金の1目財政調整交付金の関係ですが、213万1千円の補正増となっております。この関係につきましても歳出の方での支出、療養給付費が増額になったこと、これに対する7%の額が財政調整交付金として収入になることから補正増となっております。次、7款の繰入金1目の基金繰入金の関係ですが、歳出歳入の差し引きをした結果、2,432万円が不足をするということで、基金からの繰り入れを見込み補正増とさせていただいたものでございます。以上で説明を省略させていただきます。よろしくご審議の程お願い致します。

○議長（杉本邦雄議長）はい、説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。はい、中村議員。

○8番（中村保夫議員）3,000万の療養給付費の増ということで、なんか随分増えたんだなあという印象はあるんですけど、国の方針としては出来るだけ療養費を抑えようと、国民医療費を抑えようという方針ですずっと来てたはずなんだけれども、ここに来て療養給付費を国保から繰り入れるというようなのが、こんなに爆発的の増加する、50%アップは相当なアップだと思うんですけども、その辺のメカニズムについて教えていただけたところがあれば教えて下さい。

○議長（杉本邦雄議長）はい、住民生活課長。

○住民生活課長（辻 広治課長）今の療養給付費の増加の関係ですけれども、今年4月以降ですね、通常の入院であればそうそう伸びないんですけれども、心疾患それから消化器疾患等の入院、それから高額医療の治療関係ですか、手術関係というのは相当あの、私共が当初予定していた以上にですね、かかりまして、極端な例で言いますと1件400万円を超える療養給付の請求があります。それは1件ですが、あと200万、300万を超える金額が多発をして来ていたものですから、私共も年度当初でその分予測はつかなかったものですから、それがあの、急を要する手術があったということになろうかと思えます。そういったことで療養給付費が伸びたということで、ご理解をいただきたいと思えます。

○議長（杉本邦雄議長）はい、よろしいですか。はい、中村議員。

○8番（中村保夫議員）そういう突発的なことがあるのは分かるんだけど、僕ら良く聞く話で、その病院には3ヶ月以上置いてもらえないだとかね、そういった制度上の問題で療養給付費はどんどん落ちて行くんだろなという予想を私個人としては立てていたんだけど、そうでは無いということですか。

○議長（杉本邦雄議長）はい、住民生活課長。

○住民生活課長（辻 広治課長）あの、急性期の治療が終わればですね、3ヶ月というかそんなにかからないで退院をさせる、とこういった場合ですが、今回は手術ですか、そういったものを伴ってですね、1ヶ月の給付が先程言った金額になっているということです。まああの、その方が、ちょっとあの追跡はしていないんですが、何ヶ月間そこに入院していたかということは追跡はしておりませんが、1ヶ月の額で相当な経費というんですかね、医療費がかかったということでございます。

○議長（杉本邦雄議長）よろしいですか。

○8番（中村保夫議員）はい。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第66号は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

（時間の延長宣告）

○議長（杉本邦雄議長）ここで、本日の会議は5時までとなっておりますけれども、

日程 16 の後に追加議案があります。追加議案が終わるまで、時間を延長致します。

○議長（杉本邦雄議長）日程第 14、議案第 67 号。平成 19 年度沼田町介護保険特別会計補正予算についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。住民生活課長。

○住民生活課長（辻 広治課長）はい。議案第 67 号、平成 19 年度沼田町介護保険特別会計補正予算について。平成 19 年度沼田町介護保険特別会計補正予算を別冊のとおり提出する。平成 19 年 12 月 18 日提出、沼田町長名でございます。別冊補正予算第 2 号の 1 頁をお開きいただきたいと思います。

（1 頁目 第 1 条第 1 項朗読（2 項以下省略）

（「説明省略」の声あり）

○住民生活課長（辻 広治課長）よろしくお願い致します。

○議長（杉本邦雄議長）はい、説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第 67 号は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第 15、議案第 68 号。平成 19 年度沼田町公共下水道特別会計補正予算についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。建設課長。

○建設課長（谷口 勲課長）議案第 68 号、平成 19 年度沼田町公共下水道特別会計補正予算について。平成 19 年度沼田町公共下水道特別会計補正予算を別冊のとおり提出する。平成 19 年 12 月 18 日提出、町長名でございます。別冊公共下水道特別会計補正予算 1 頁をご覧ください。

（1 頁目 第 1 条第 1 項朗読（2 項以下省略）

○建設課長（谷口 勲課長）今回の補正は事業執行に伴い発生しました不用額の減額でございます。それでは歳出から説明申し上げます。8 頁をお開き下さい。1 款下水道費 524 万 1 千円の減額でございます。1 目一般管理費 300 万 1 千円の減額でございます。2 節給料から 4 節共済費までは人事異動に伴います、職員の異動に伴いま

す給与関係の補正でございます。13節委託料、浄化センター運転委託料費の減額でございます。15節工事請負費185万1千円の減額でございます。道々石狩沼田停車場線污水管移設工事の減額でございますが、これは道々工事の変更に、内容の変更によりまして延長が、移設延長が短くなった為の減額でございます。16原材料費23万3千円の減額でございます。浄化センターで使用します薬品の購入費の減でございます。27節公課費109万円の減額でございます。消費税納付金額の減でございます。これは18年度の清算1年分でございます。それと19年度の間申告を合わせたものの精査でございます。1頁めくっていただきまして、2款個別排水処理施設整備事業費1目一般管理費負担金及び交付金、水洗便所改造補助金14万円の減額でございます。2目個別排水処理施設建設費210万円の減額でございます。個別排水処理施設設置工事の減でございます。いずれもですね、合併浄化槽の設置数が減ったことによります減額でございます。次に、歳入を説明いたします。5頁をお開き下さい。

(「説明省略」の声あり)

○建設課長(谷口 勲課長) よろしくご審議のほどお願い致します。

○議長(杉本邦雄議長) はい、説明が終わりました。はい。

○2番(横山忠男議員) 説明が省略されたからちょっとあれなんだけれども、収入のところで道々石狩沼田停車場線の工事の補償費が147万3千円ですか、工事したのが185万1千円、多少差額があるからこれだけ補償が少なくなった分、請け負わせたのも余計少なくなったよということかい。

○議長(杉本邦雄議長) はい、建設課長。

○建設課長(谷口 勲課長) 只今のご質問でございますが、収入の147万3千円が道から来ている補償費でございますが、工事費に関しましては補償工事の場合ですね、全額資産減耗の分がですね、差っ引かれて補償費が交付されるということでございますので、その差がこのようになっています。

○議長(杉本邦雄議長) はい、よろしいですか。

○2番(横山忠男議員) はい。

○議長(杉本邦雄議長) 他に質疑ありませんか。質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(杉本邦雄議長) ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第68号は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(杉本邦雄議長) ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第16、議案第69号。平成19年度沼田町水道事業会計補正予算についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。建設課長。

○建設課長（谷口 勲課長）議案第69号、平成19年度沼田町水道事業会計補正予算について。平成19年度沼田町水道事業会計補正予算を別冊のとおり提出する。平成19年12月18日提出、沼田町長名でございます。別冊水道事業会計補正予算をご覧ください。1頁をお開き下さい。

（1頁目 第1条第1項朗読（2項以下省略））

○建設課長（谷口 勲課長）今回の主な補正は受託工事関連等の事業執行上発生致しました執行不用額を減額するものであります。10頁をお開き下さい。

（「説明省略」の声あり）

○建設課長（谷口 勲課長）よろしくご審議のほどお願い致します。

○議長（杉本邦雄議長）はい、説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について採決致します。お諮り致します。議案第69号は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり決しました。暫時休憩致します。

17時04分 休憩

17時05分 再会

（議事日程の追加）

○議長（杉本邦雄議長）再開致します。議事日程の追加についてお諮り致します。只今事務局より請願書4件について、追加案件が提出されました。この際これを日程に追加したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認めます。よって日程17、請願第3号、「消えた年金」問題の早急な解決と最低保障年金制度の実現を求める請願について。日程第18、請願第4号、後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める請願について。日程第19、請願第5号、品目横断的経営安定対策に関する請願について。日程第20、請願

第6号、産地づくり交付金等の税制特例による一時所得扱いの継続を求める請願について。以上4件を日程に追加することに決しました。

(請願の審議)

○議長（杉本邦雄議長）日程第17、請願第3号、「消えた年金」問題の早急な解決と最低保障年金制度の実現を求める請願についてを議題と致します。本請願については、会議規則第92条第2項の規定により委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって請願第3号は委員会付託を省略することに決しました。直ちに審議に入ります。ここで、紹介議員より説明を求めるところですが、この際、説明・質疑を省略致したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、説明・質疑を省略することに決しました。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結します。本案について採決致します。お諮り致します。請願第3号は採択すべきものと決定してご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、請願第3号は採択すべきものと決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第18、請願第4号、後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める請願についてを議題と致します。本請願については、会議規則第92条第2項の規定により委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって請願第4号は委員会付託を省略することに決しました。直ちに審議に入ります。ここで、紹介議員より説明を求めるところですが、この際、説明・質疑を省略致したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、説明・質疑を省略することに決しました。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結します。本案について採決致します。お諮り致します。請願第4号は採択すべきものと決定してご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、請願第4号は採択すべきものと決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第19、請願第5号、品目横断的経営安定対策に関する請願についてを議題と致します。本請願については、会議規則第92条第2項の規定により委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって請願第5号は委員会付託を省略することに決しました。直ちに審議に入ります。ここで、紹介議員より説明を求めるところですが、この際、説明・質疑を省略致したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、説明・質疑を省略することに決しました。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結します。本案について採決致します。お諮り致します。請願第5号は採択すべきものと決定してご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、請願第5号は採択すべきものと決しました。

○議長（杉本邦雄議長）日程第20、請願第6号、産地づくり交付金等の税制特例による一時所得扱いの継続を求める請願についてを議題と致します。本請願については、会議規則第92条第2項の規定により委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって請願第6号は委員会付託を省略することに決しました。直ちに審議に入ります。ここで、紹介議員より説明を求めるところですが、この際、説明・質疑を省略致したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、説明・質疑を省略することに決しました。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご意見なしと認め、討論を終結します。本案について採決致します。お諮り致します。請願第6号は採択すべきものと決定してご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって、請願第6号は採択すべきものと決しました。

（議事日程の追加）

○議長（杉本邦雄議長）議事日程の追加についてお諮り致します。只今採択されました請願に伴う意見案他9件について追加案件が提出されました。この際これを日程に追加したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）質疑なしと認めます。よって日程21、意見案第13号、「消えた年金」問題の早急な解決と最低保障年金制度の実現を求める意見書（案）について。日程第22、意見案第14号、後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める意見書（案）について。日程第23、意見案第15号、品目横断的経営安定対策に関する意見書（案）について。日程第24、意見案第16号、産地づくり交付金等の税制特例による一時所得扱いの継続を求める意見書（案）について。日程第25、意見案第17号、灯油等石油製品の価格を引き下げするための緊急対策を求める意見書（案）について。日程第26、意見案第18号、悪質商法被害を助長するクレジットの被害を防止するための割賦販売法の抜本的改正に関する意見書（案）について。日程第27、意見案第19号、第二期地方分権改革にあたり地域間格差の解消を求める意見書（案）について。日程第28、意見案第20号、「森林環境税（仮称）」の導入を求める意見書（案）について。日程第29、意見案第21号、アイヌ民族に関する総合的施策確立のため国に審議機関設置を求める意見書（案）について。以上、日程に追加することに決しました。

（意見案の一括審議）

○議長（杉本邦雄議長）意見案の一括審議について、お諮りします。この際、意見案第21号から第29号までを一括審議して議題にしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって意見案第21号から第29号

は、一括して議題とすることに決しました。提案者より説明を求めるところですが、この際、説明、質疑、討論を省略致したいと思います。これにご異議ありませんか。はい、橋場議員。

○7番（橋場 守議員）あのね、一括審議だけれども、この全体の中で異議のあったり質問のある人は、日程とそれと意見書第何号というのを言ってね、出して下さいと、その上で無ければ一括賛成で決議して欲しいと思います。

○議長（杉本邦雄議長）今、橋場さんから一括致しますけれども、意見書（案）の中身に応じて質問のある方は、その都度質問をしていただきたいと思います。それではこれをもう一回読み直さなければならぬ。

○7番（橋場 守議員）いや、いいんです。だからね、各個人個人の議員がさ、この問題について質疑があると言ったら質疑をしてもらって、で終わったら一括して。

○議長（杉本邦雄議長）それでは、質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって意見案第21号から第29号は一括して議題とすることに決しました。提案者より説明を求めるところですが、この際、説明、質疑、討論を省略したいと思います。これに異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。説明、質疑、討論を省略することに決しました。それでは、意見案9件を一括して採決致します。お諮り致します。只今の意見案9件は、原案どおり関係機関に提出することに決定してご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（杉本邦雄議長）ご異議なしと認めます。よって原案どおり関係機関に提出することに決しました。

（閉 会 宣 言）

○議長（杉本邦雄議長）以上で、本定例会に付議された案件はすべて終了致しました。これにて平成19年第4回沼田町議会定例会を閉会致します。大変ご苦勞様でした。なお、議員の皆様にお願ひ致します。直ちに全員協議会を開催しますので、若干の時間でありまますので議員控え室までお集まり下さい。

17時15分 閉会

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するためにここに署名する。

議 長

署名議員

署名議員